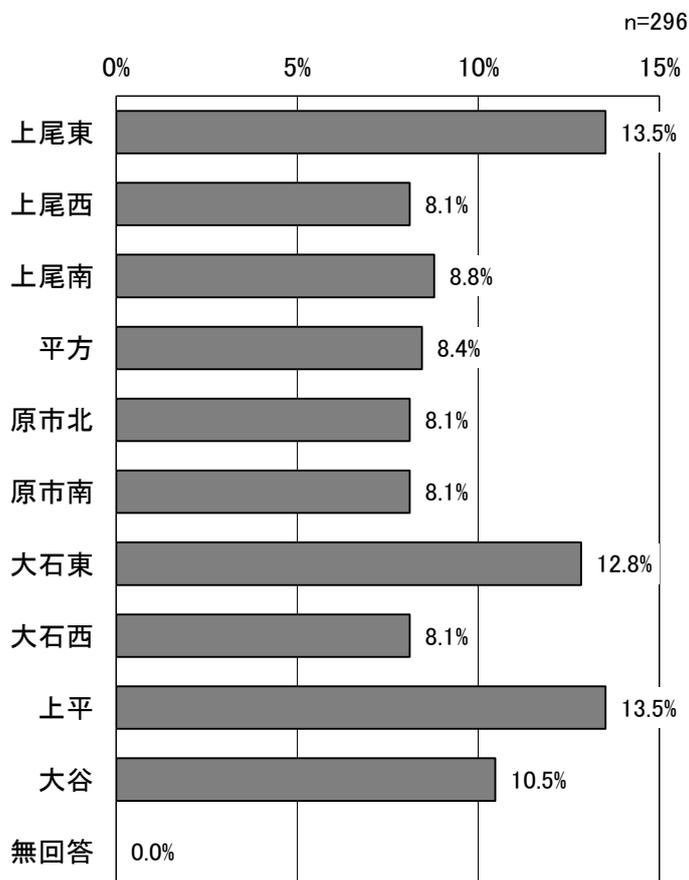

V. 民生委員・児童委員調査結果

1. 担当地区について

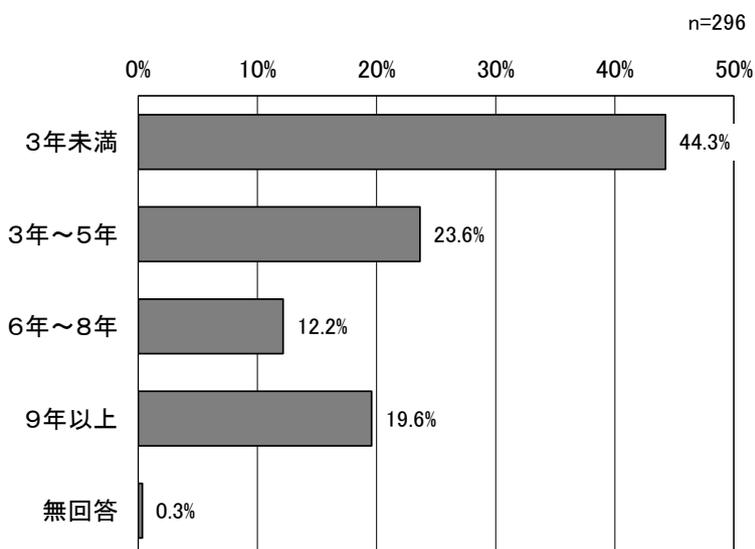
問1 あなたが民生委員・児童委員として担当している地区は次のうちどこに含まれますか。(ひとつだけ〇)

民生委員・児童委員として担当している地区については、「上尾東」「上平」が13.5%と最も高く、次いで「大石東」が12.8%、「大谷」が10.5%となっています。



問2 あなたの民生委員・児童委員としての在任・経験年数はどれくらいですか。(ひとつだけ〇)

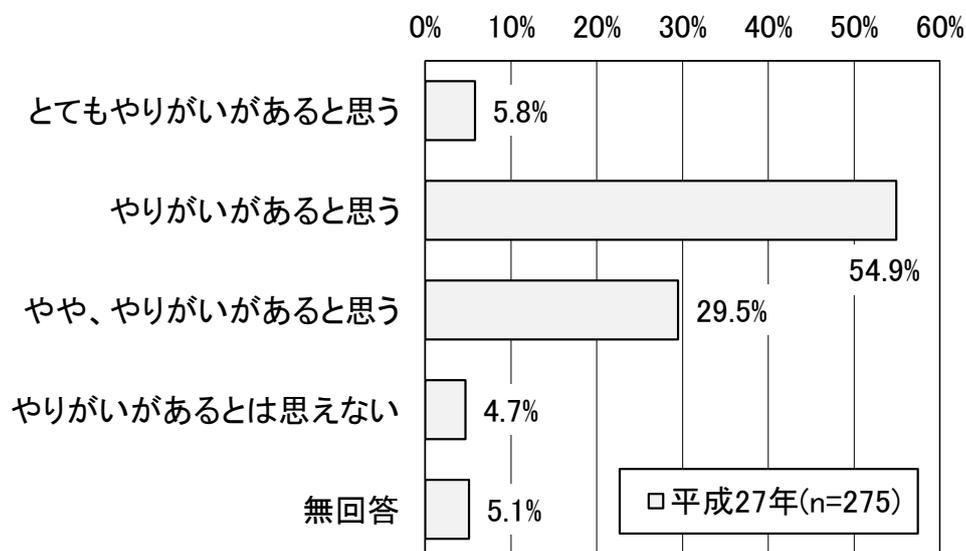
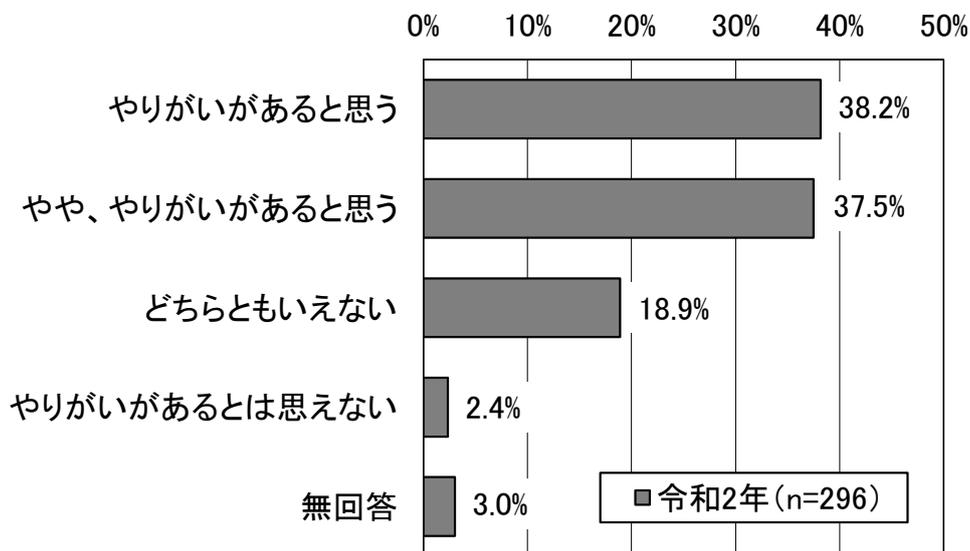
民生委員・児童委員としての在任・経験年数については、「3年未満」が44.3%と最も高く、次いで「3年～5年」が23.6%、「9年以上」が19.6%となっています。



2. 民生委員・児童委員の活動について

問3 あなたは民生委員・児童委員の活動のやりがいについてどう思いますか。また、どのようなときにやりがいを感じますか。(ひとつだけ〇)

民生委員・児童委員の活動のやりがいについては、「やりがいがあると思う」が38.2%と最も高く、次いで「やや、やりがいがあると思う」が37.5%、「どちらともいえない」が18.9%となっています。



※平成27年の調査時に対し、選択項目の語句が若干変わっています。

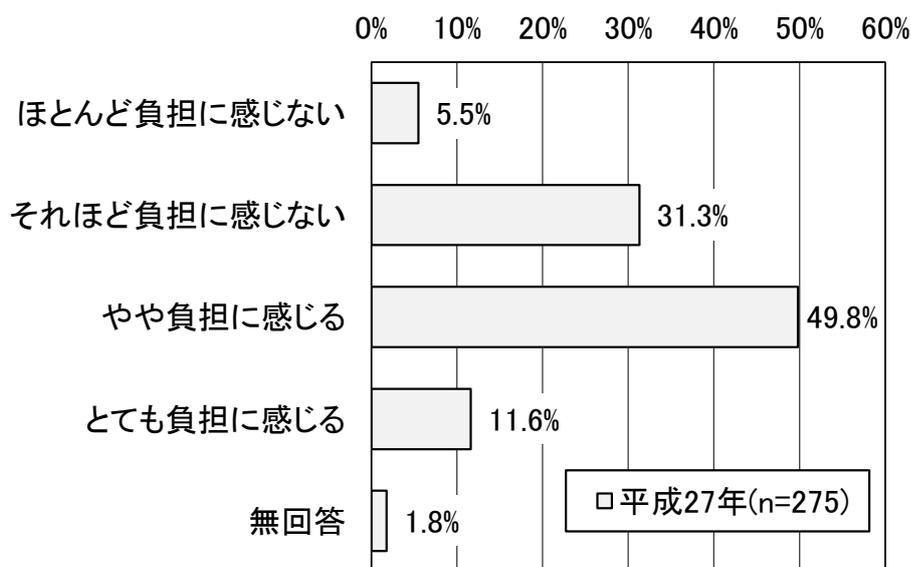
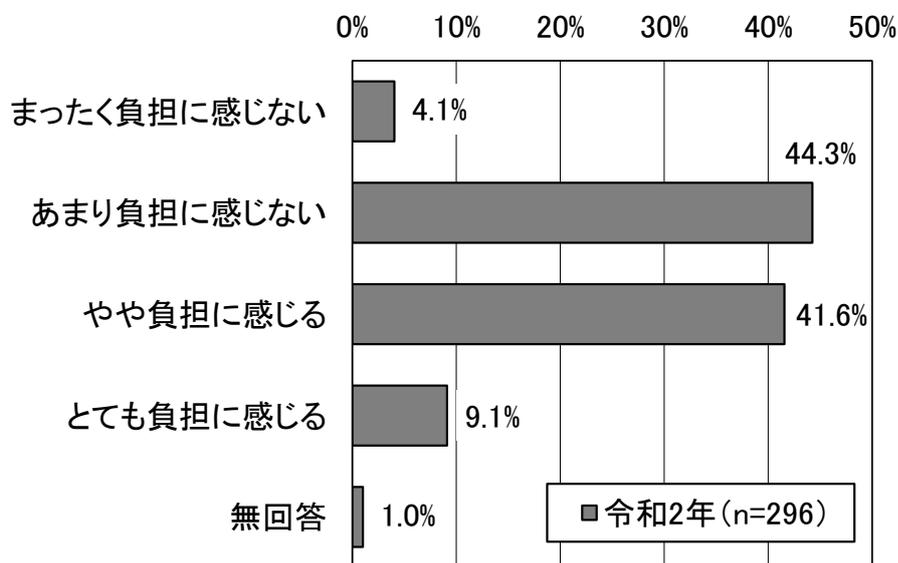
(問3 民生委員・児童委員の活動について) やりがいを感じる事 (具体的にご記入ください)

いただいた主なご意見は以下のとおりです。

- 困り事や問題を抱えている方の役に立つことに関わった時。
- 相談事に対して適切な案内が出来、介護認定を受けてもらいデイサービスに行くようになって元気になった(リハビリにより移動が苦にならなくなった)と、喜ばれた時にやりがいを感じました。
- 支援が必要な方の負担が少しでも軽減された時には活動していて良かったと思います。
- 包括センターに行ったり、内科に行ったり大変なこともあるが、その都度連絡をもらい頼られていることを感じた。
- 問題を抱えた人たちと今を共に学び合えてると思えた時。
- 手助けしたいというこちらの思いが伝わり、徐々に心を開いて話しだして下さるようになった時、信頼関係が築けたかなと感じやりがいに繋がる。
- 相手の人(ひとり暮らし)の話を聞いている時、イキイキしている表情を見た時。
- 訪問した際、介護認定の仕方、話し相手がないので話を聞いてもらって嬉しいとか言われたりした時、やっけて良かったと思う。相談事を尋ねられた時です。
- 身近に新しい情報を届けることが出来ると思うから、より高齢者に寄り添える地域の味方という立場だから。
- 地域の人とのふれあいが深くなる事。
- 道路等であった時に以前より元気に手を振ってもらえたりする。
- 一人暮らしの方の所へ行き、色々な人生の先輩として教えて頂く事もあり、親と同じ世代の方と会いとても心温かい時間を過ごす事が出来、私自身感謝しています。
- 待ってたよー！いつもありがとう！と声をかけて頂く事も多くなり嬉しいです。
- 担当の方々から「いつもありがとう」等言われると役に立っていることを実感する。
- 訪問を喜んでいただけたとき。嬉しそうにご自身のお話を聞かせて頂けたとき。高齢者サロンの報告(毎月初出しているもの)を読んでいると言っていたとき。
- 在任中の色々な経験がまわりまわって自分のためになると感じる。
- 地域での活動(子育てサロンなど)で、直接母子と触れ合い、話を伺う機会があり、様子の変化や子供たちの成長を実感出来ること。
- 言葉が遅く発育の心配されるお母さんと子供と仲良くなれた時。
- 当地に生れ育った訳ではない。会社生活時代は家と東京都心の往復の毎日で、地域の方との接点は全くなく、交流も皆無。リタイア後は生活は、会社から地域にシフトし、今迄全く知らなかった多くの人(高齢者)と接点が出来、また違った活動の日々で充実。
- 今まで会社を家としてグループ、仲間しか目に入らなかったが、町内のことや委員活動の仕組みも少々知ることが出来ました。
- 現役で仕事を持っている時は、地域活動に関わる事が皆無だったから年金生活の今、民生委員活動が自分の居場所になっている。

問4 あなたにとって、民生委員・児童委員の活動の負担はどの程度だと思いますか。(ひとつだけ○)

民生委員・児童委員の活動の負担については、「あまり負担に感じない」が44.3%と最も高く、次いで「やや負担に感じる」が41.6%、「とても負担に感じる」が9.1%となっています。

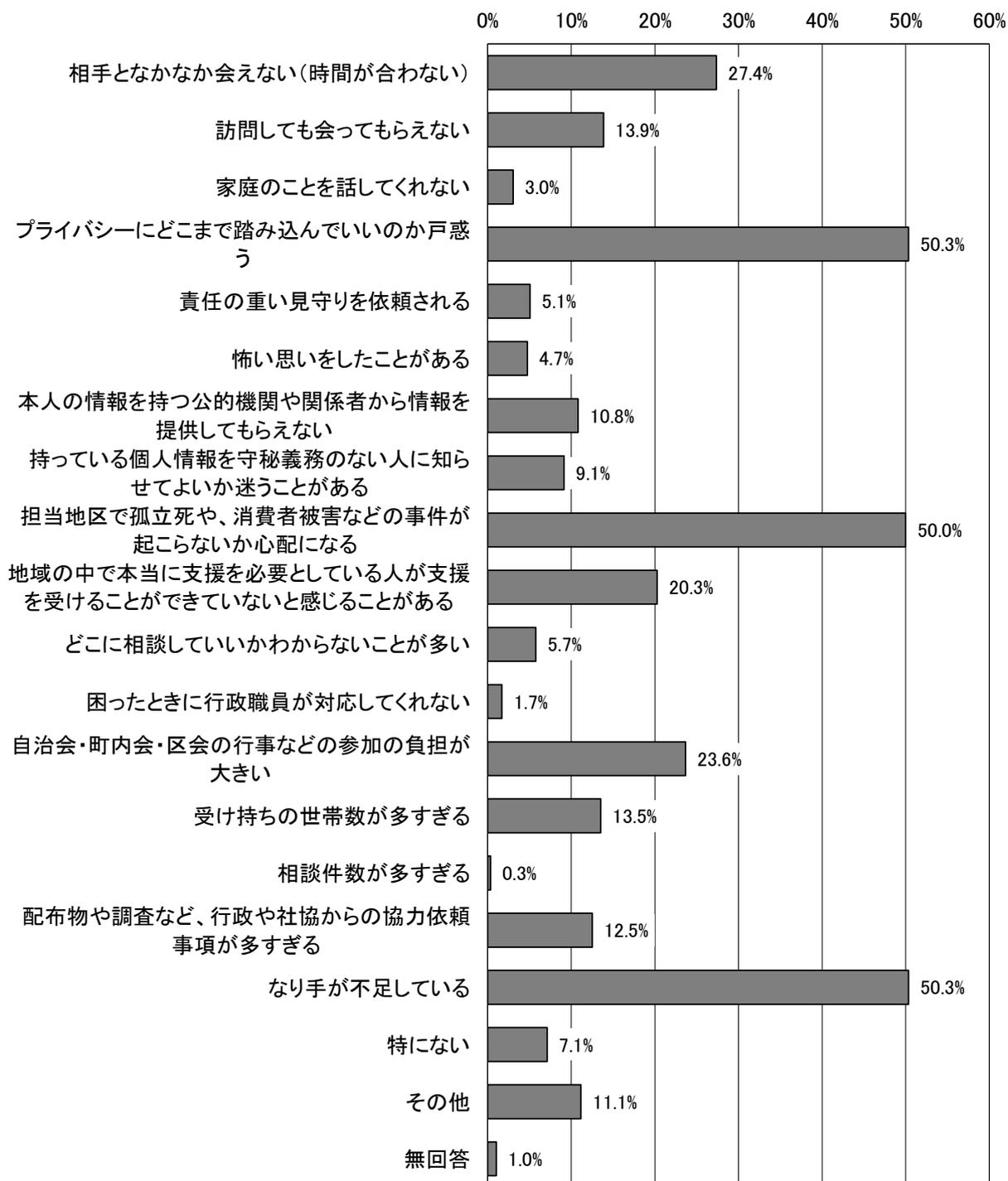


※平成27年の調査時に対し、選択項目の語句が若干変わっています。

問5 民生委員・児童委員活動のなかで、大変・困難だと感じることは、どんなことですか。(5つまで
○)

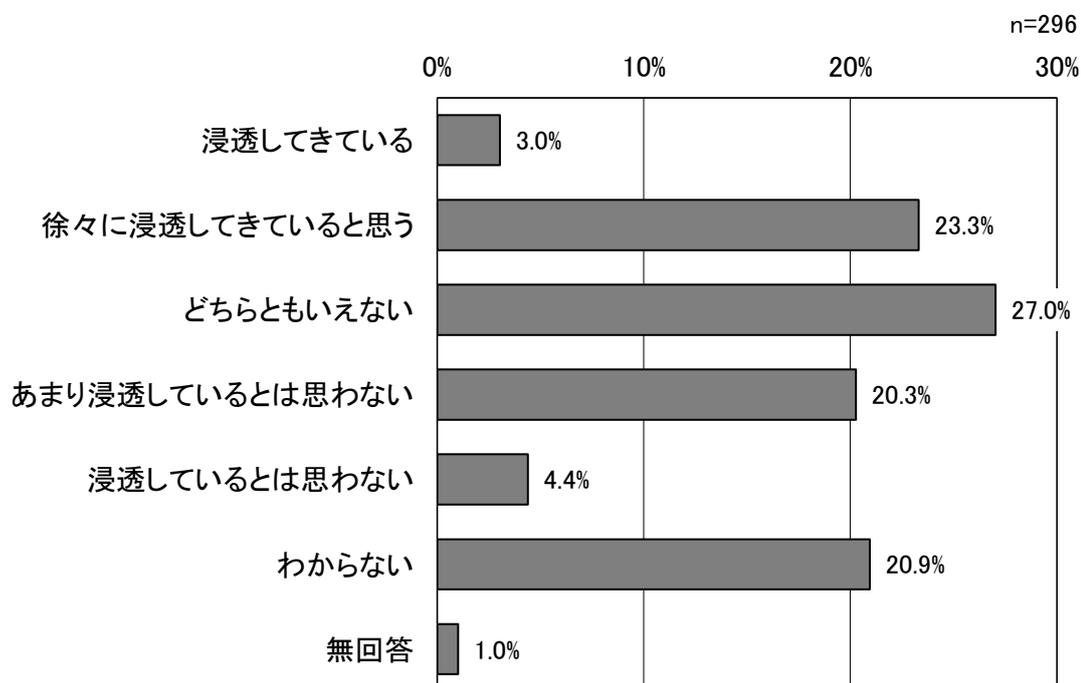
民生委員・児童委員活動のなかで、大変・困難だと感じることについては、「プライバシーにどこまで踏み込んでいいのか戸惑う」「なり手が不足している」が50.3%と最も高く、次いで「担当地区で孤立死や、消費者被害などの事件が起こらないか心配になる」が50.0%となっています。

n=296



問6 上尾市社会福祉協議会の13支部で実施している「あったか見守りサービス事業」は、地域の中で浸透してきていると思いますか。(ひとつだけ〇)

「あったか見守りサービス事業」については、「どちらともいえない」が27.0%と最も高く、次いで「徐々に浸透してきていると思う」が23.3%、「わからない」が20.9%となっています。



問6で「4」または「5」を選んだ方にうかがいます

問7 十分浸透していないと思う理由は何ですか。また、どのようにしていけば浸透すると思いますか。(具体的にご記入ください)

【周知について】

- チラシなどでもう少し知らせる。
- 知らないのだ。
- そのサービス事業を知らない。
- 民生委員になるまでこのサービス事業を知りませんでした。
- あったか見守りサービス事業そのものを知らない。周知していく必要がある。コロナもある時なので、チラシや広報などにのせる。
- 正直あったか見守りサービスを知りませんでした。一部の方々だけ浸透していると考えます。
- 各自地区でのPRをより多くする必要を感じます。
- あったか見守りサービス事業がある事を知りませんでした。お年寄りにならないとわからない事が多い。民生委員を嫌う人もいる。国勢調査で伺ったとき「あんた民生委員じゃないよね」って言われました。担当外だったので良かった。
- 社協を知らない人が未だ多いのでは。
- 社会福祉協議会が何をしているのか地域にわかっていない。地域の支え合い活動もあるので選んでくれるのは良いと思うけれど、違い、情報共有ができていない。
- 担当地区に対象者がいるのかわからない。および地域に見守り協力員がいるのかもわからない。この事業のアピールが少ない社協そのものが何なのかわからないのではないかと。

- 恥ずかしい事ですが私自身知識がありません。勉強不足です。訪問して歩いていても耳には届きません。
- サービスを受けている人がいない。チラシなどでお知らせを広くする。
- PR 不足もあるかもしれませんが、配布物をいくら配っても目を通さない人が多い事が大きな要因。社協が民生委員の会議や集会で、見守りのプレゼントをする。民生委員から対象者にすめる。
- 守秘義務を重要して、他人に話さないのが広まらず、見守りサービスはほとんどの人が知りません。
- 対象者より質問されたことが無い。私も案内をしたことが無い。介護認定を受けた方で、①支援、②非該当の方へ、通知文を入れる。
- 市の広報活動が市民全般に伝わってこない。
- 「あったか見守りサービス事業」があるという事をPRしていない。PRしていけば浸透すると思います。
- 知らない人が多いのではという感じ。
- 皆さんよく分かっていない。アピール不足では？地道にお知らせすることでは。
- ①活動を周知されていない。説明不足。高齢になってきているので理解されにくい。
②町内の回覧で回すとか、1回だけでなく。単身者調査等でチラシを配布するなど。
- 広報誌、回覧物などに「見守り訪問」の紹介などがあっても見ていないことが実情だと思います。また、高齢者の方は人に頼むことに対して申し訳ないという気持ちがあるように思います。私たち民生委員が地道に情報を提供していくことではないでしょうか。
- 見守りサービスについての説明が不足しているためか、サービスを受ける人が少ないような気がする。
- 民生委員になって初めて知りました。他の住民も知っている人は少ないと思います。
- ①高齢者本人及び家族がこのことを知らない。②知ってもらうための工夫が必要。
- 関係者から（例えば包括さん）情報がいただけない。
- 「見守りサービス」という言葉が住人の間に浸透していない。
- 利用する側はこの制度を周知しているのか知りたい。サロン、団欒等に参加される方は情報が入りやすいが、人と群れるのが好きでない人たちもいるので、そういう方たちにも折に触れて伝えてほしいと思う。色々なサービス事業があることが分かれば、日常生活をしていく上で安心材料の一つとなると思います。普段から選択肢があることを知ってほしい。自発的に選べればと思います。集まる顔ぶれが同じ。
- 私の知っている方で利用している方がいないので。広報だけではなく、別にチラシで配布する。
- 知らない高齢者が多いです。
- ①協力員との交流がない。
②見守りサービスの実態が分からない。（限られた人だけのサービス？）
③協力員が少ないのでは？呼びかけしているのかも分からない。
- 各種高齢者団体に広報活動をする。（民生委員、児童委員にも）
- 特に日常の生活に困窮していないか、又は活動が認識されていないか。（自治会活動に加入されていない方）

- 地域においては具体的な活動がまだされていない様に思います。遠くから見守るにとどまっている。もっと支え合える事柄を具体的に考えて取り組んでいき、地区の人々にもっと周知されるように努力することが必要だと思う。
- 一般の人には知られていないので。

【事業の需要について】

- 利用した人を会ったことがない。
- サービス事業をうけているという話をあまり聞かない。
- 地区自治会内で必要とする意識が低い。地区住民内で社協に対する認識が薄い。地区中心部で、家族意識が強く、外部に頼るニーズが少ない。地区新住民区域は比較的若い家族が多く、必要としない。もう少し先に目標をおいて、地道に広報の協力者を増やす。
- 担当している高齢者は、近くに子供たちが住んでいるか同居しているので、今のところ必要を感じていないのではないかなと思う。
- ①本人が見守りを希望しない場合が多い。
②他人との信頼関係を作るのが難しいようであります。
- コロナの影響のせいか参加したからない人が多い。

【事業対象の把握方法について】

- 地区という大きなくくりで活動しているので、市境になっている担当地区は遠すぎて利用しにくい。
- 地域の見守りがあり、社協のボラの見守りはどこを担うか？

【地域や他の組織・団体との連携について】

- 自分の地域ではないが、民生委員と自治会とのコミュニケーションが悪い為、一歩先に進まないのではないかな？
- ①民生委員と見守り協力員の連携が悪い。組織的でないように思われる。
②地区会長とは連携しても地区長（社協）との連携がない。
- 利用している地域と全く利用していない地域があり、見守りサービスと民生委員の連携もよく分からない所がある。

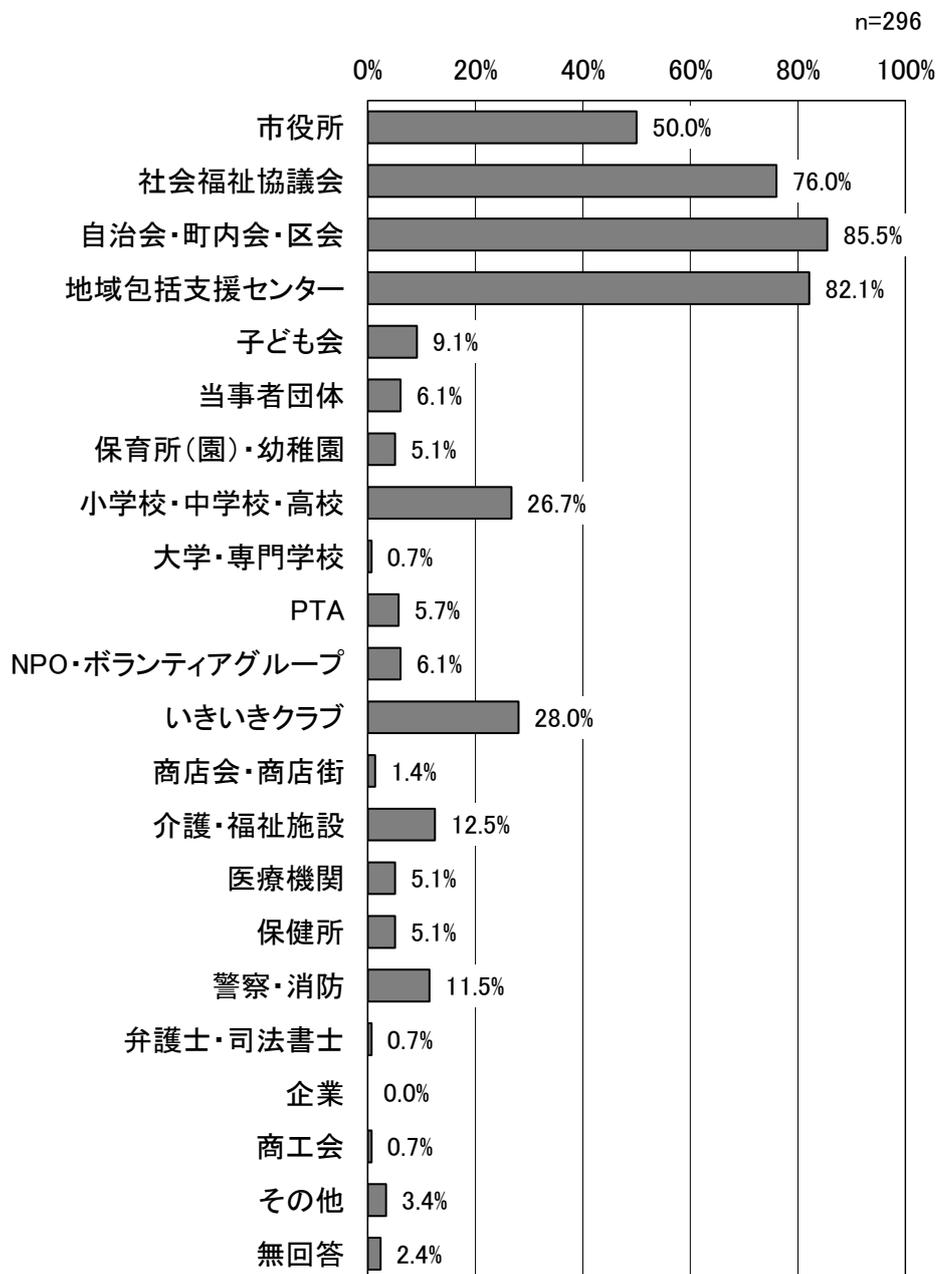
【その他】

- 地域の関連する事にあまり興味がない。無関心、他人事と思っている。
- 世帯数が多すぎて見守りの人数が少ない。
- 社協の担当者の高齢化を解消し、活動をもっと活発にする必要があると思う。
- 誰から見て浸透しているのか？対象者からみてですか？
- この様な事業があると言っても不安げな態度をとられる。あてにしないとと言われてしまう事も。
- 高齢者の自由とプライドと事業の関係はなかなか難しい。手を挙げた人には十分対応するだけでいいのではないかな。
- そもそも私自身が理解出来ていない。

- 必要としている人との日時が合わせづらい。
- 町内役員が積極的でない。誰かやるだろう、態度に見える！相談してもダメです。
- 町内のことにあまり興味を持っていない方たちが多い。
- まず興味を持ってもらうことだと思うが、関心がない。もっと町内会、子供会が仲良く活動し、お父さんお母さん世代と接点を持った方が良い。
- 趣旨がよくわかりません。
- ①サービスについて説明がしにくい。②包括さんがいるので、そこに相談する方が多い。
- これは担当区域に限っての印象です。民生委員制度が認知されているので、殆どの方が受け入れて下さっていますが、例えば申込制だったら希望者が少ないだろうと想像します。自宅をたずねてもらおうという事に抵抗がありそうな気がします。
- 民生委員や周りの人が心配しているわりに、本人は大丈夫、他人に迷惑をかけたくないという思いがあり、かみ合わないのではないかと。
- 地区ごとに支援する人がいればもっと浸透すると思うのですが、プライバシーや相性もあると思うので…。
- 町内会の加入しない方が比較的興味がないようで、いざとなった時、見守りサービスを聞かれたことがある。
- 今年はコロナ禍で会って話すことが出来ない状態だった。ひとり暮らしの方で訪問を拒否したり、一人暮らしの方が施設に入所した場合、さらに「はっきり」させるには、民生委員では無理がある。そこで市から、民生委員に伝えて（把握できているのか）もらうことは出来ないのか、活動がはっきり見えない。
- 私自身がよく理解出来ていない（意義（必要性）を理解していない）ので積極的に協力していないかもしれません！！区民の関心が薄い。訪問による安否確認は難しい。今年度初めて民生委員を受け、コロナで訪問を控えるようにと言われているのでほとんど訪問していません。

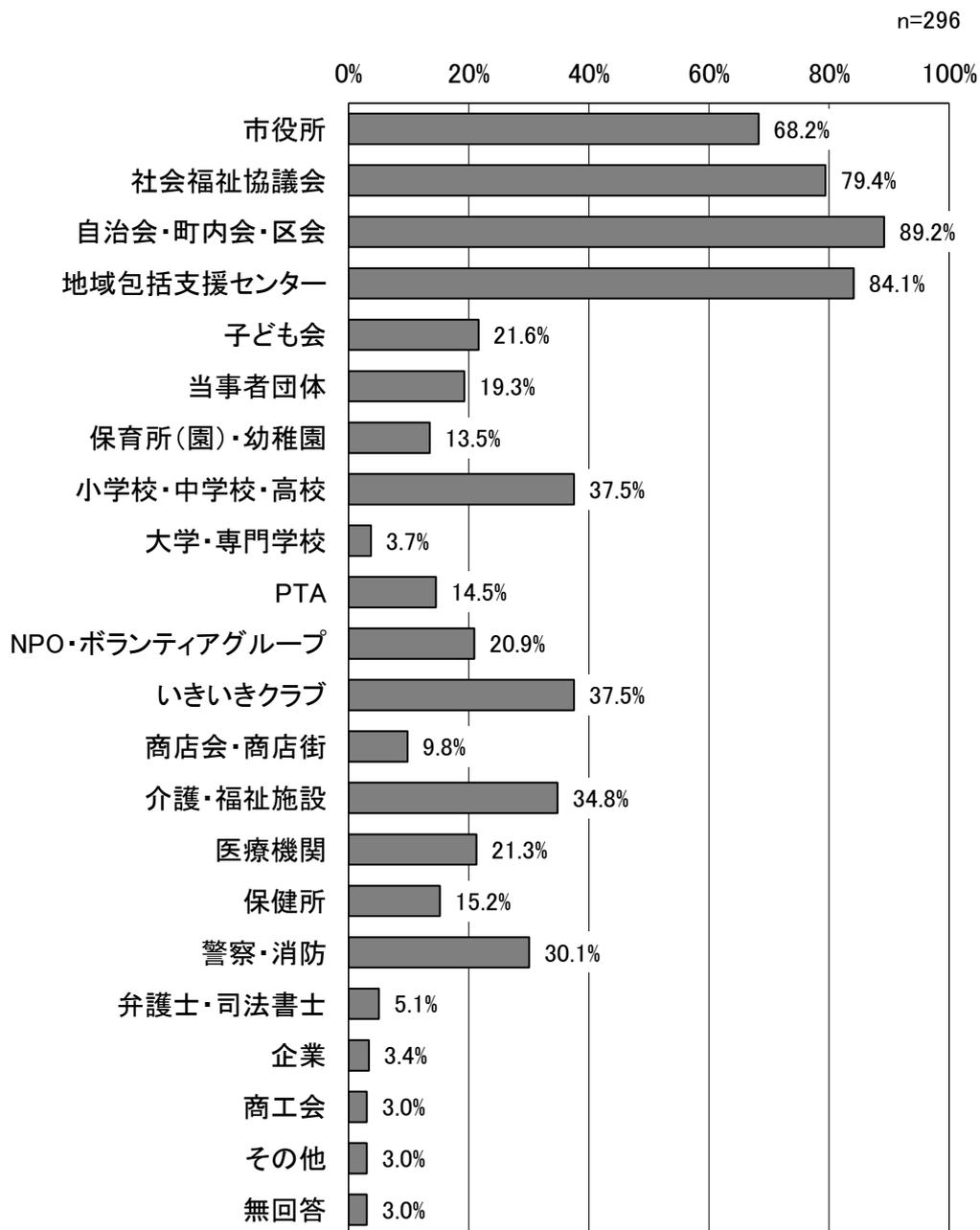
問8 現在、担当地区で見守り活動を展開していく上で、お互いに協力・連携している団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

担当地区で見守り活動を展開していく上で、協力・連携している団体・組織については、「自治会・町内会・区会」が85.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が82.1%、「社会福祉協議会」が76.0%となっています。



問9 今後、担当地区において、お互いに協力・連携して地域の見守り活動を進めた方がよいと思う団体・組織はどれですか。(あてはまるものすべてに○)
 ※すでに協力・連携している団体・組織にも○をつけてください。

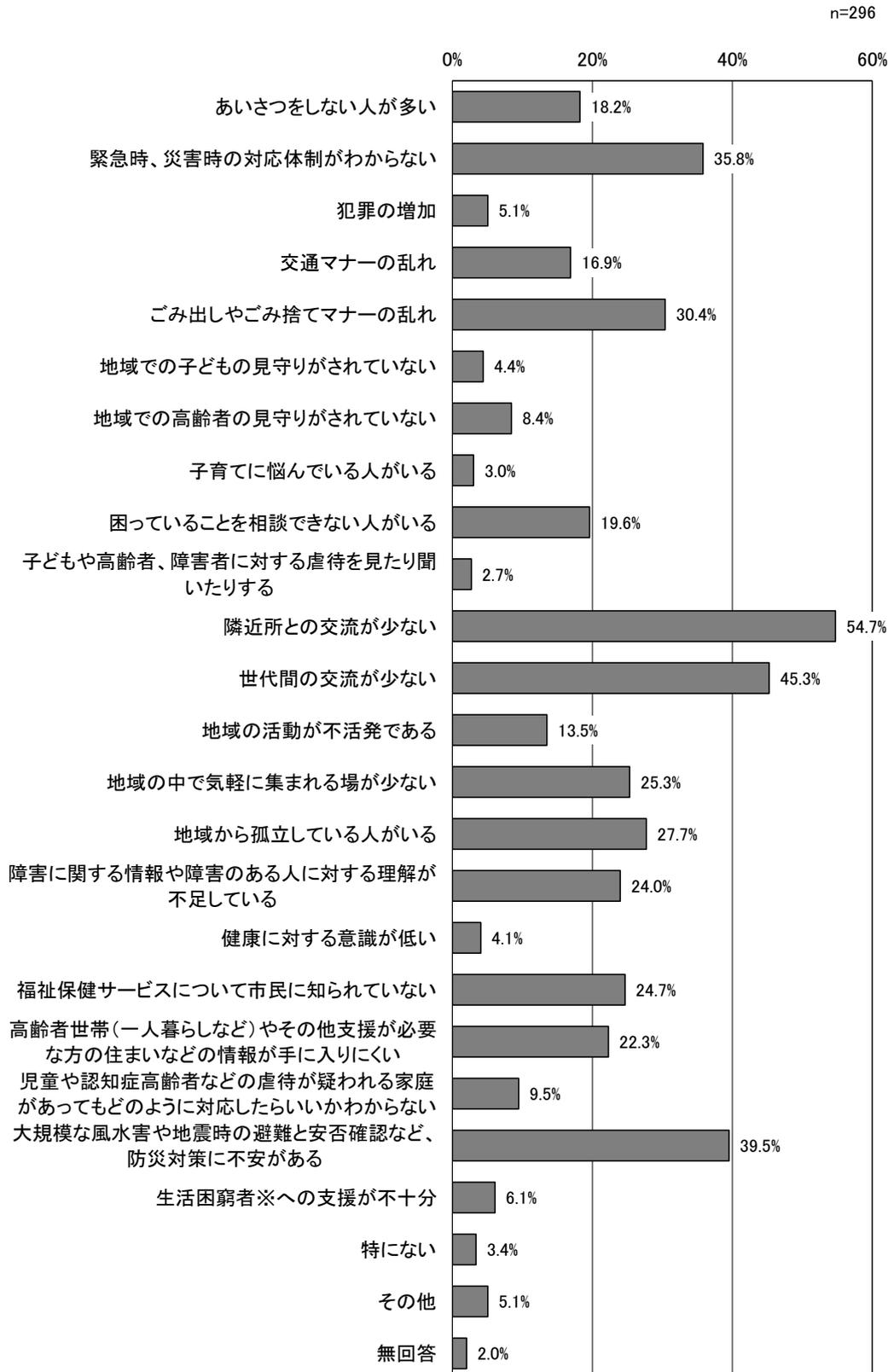
担当地区において、お互いに協力・連携して地域の見守り活動を進めた方がよいと思う団体・組織については、「自治会・町内会・区会」が89.2%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が84.1%、「社会福祉協議会」が79.4%となっています。



3. 地域の課題について

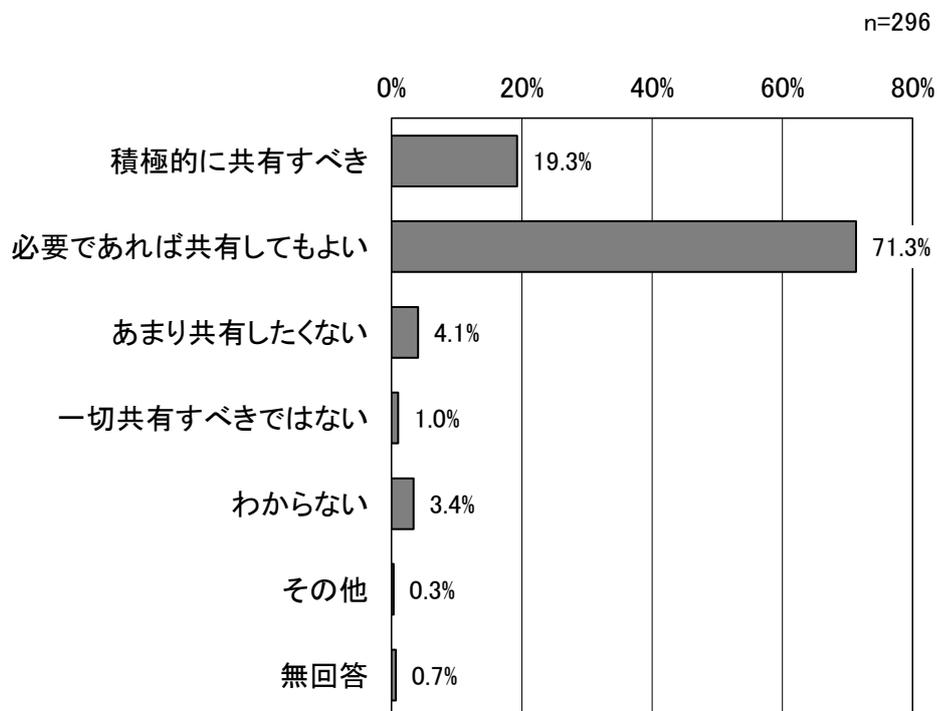
問 10 活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

地域の問題点や課題については、「隣近所との交流が少ない」が54.7%と最も高く、次いで「世代間の交流が少ない」が45.3%、「大規模な風水害や地震時の避難と安否確認など、防災対策に不安がある」が39.5%となっています。



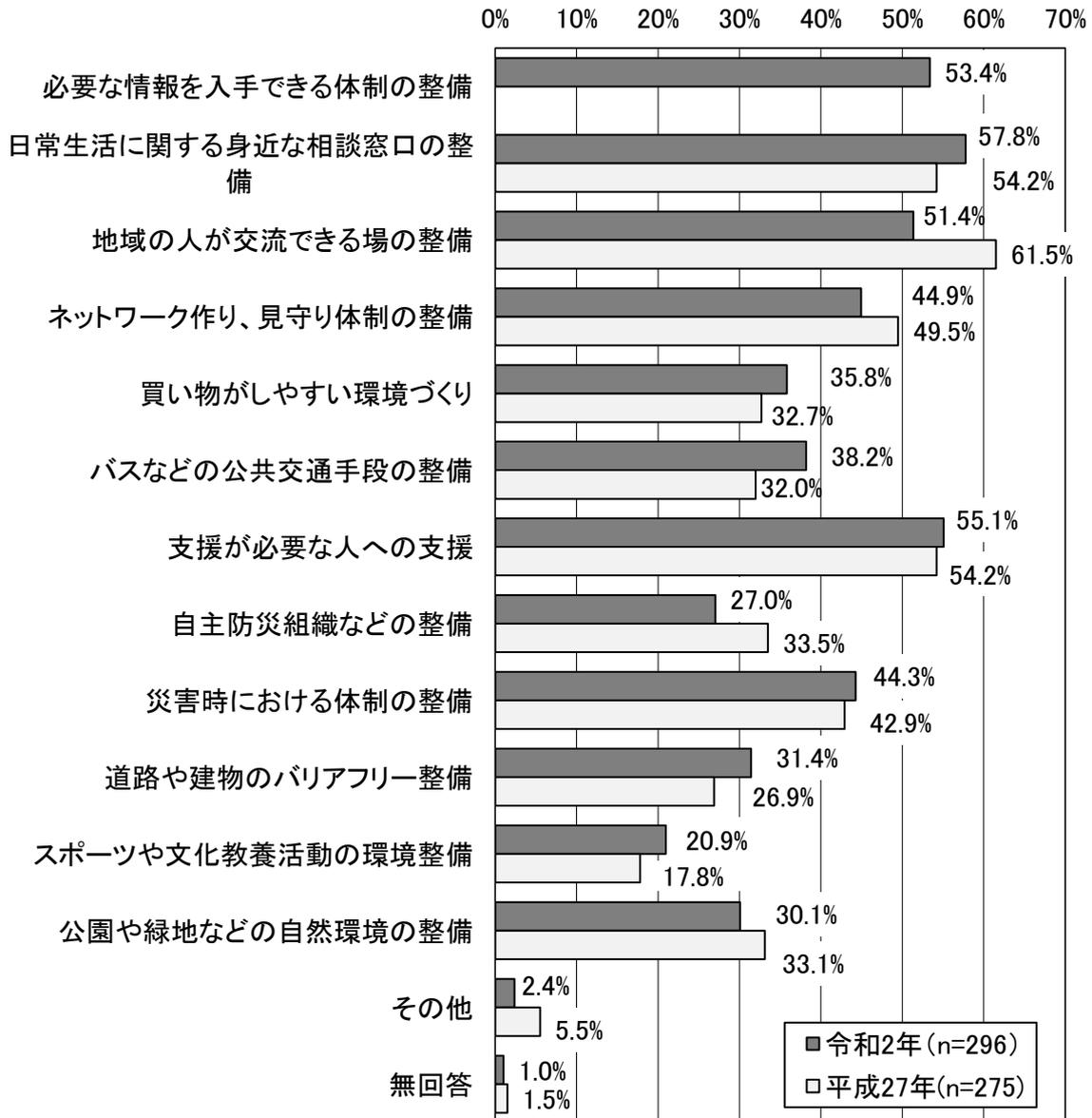
問 11 あなたは、地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止などのために、自治会・町内会・区会を単位とした支援者が必要な個人情報を活用する方法をどのように考えますか。(ひとつだけ〇)

必要な個人情報の共有に対する考えについては、「必要であれば共有してもよい」が71.3%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」が19.3%、「あまり共有したくない」が4.1%となっています。



問 12 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なものについては、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」が57.8%と最も高く、次いで「支援が必要な人への支援」が55.1%、「必要な情報を入手できる体制の整備」が53.4%となっています。



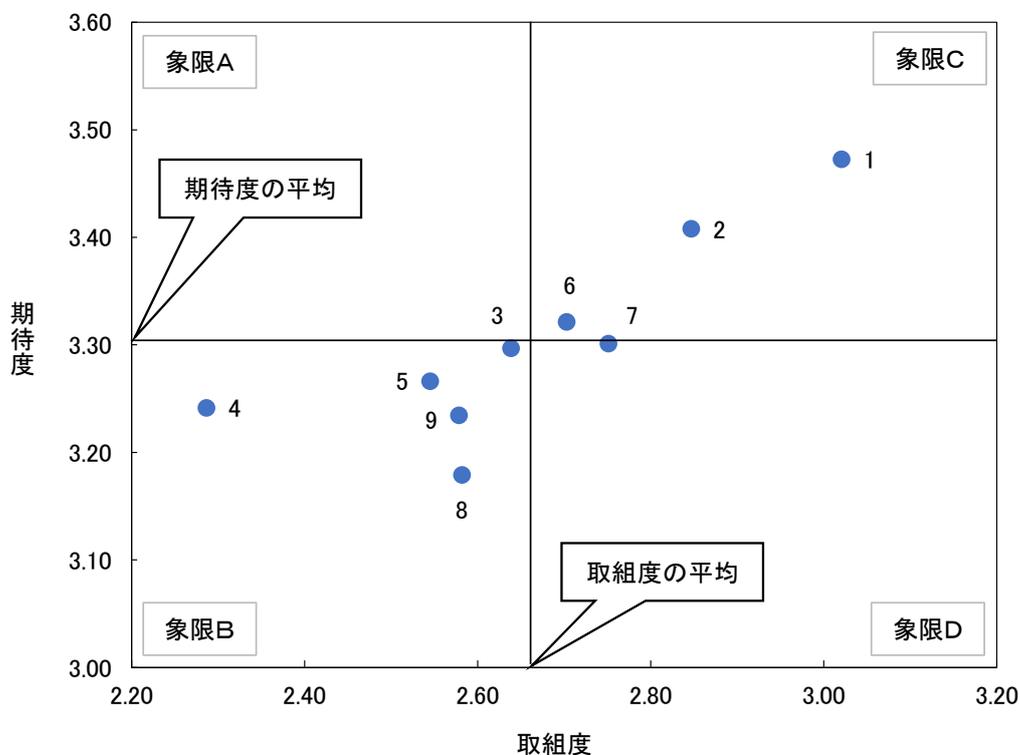
※平成27年の調査時に回答項目の無かったものは、空白になっています。

4. 上尾市と上尾市社会福祉協議会の取り組みについて

問 13 地域における取り組みについて、現在の状況と今後の期待度はどれにあたりますか。(それぞれ〇はひとつずつ)

各項目を点数化してみると、期待度・取組度ともに高い『象限C』に「1. 福祉サービスの利用支援」「2. 支援をつなぐ仕組みづくり」が入っています。

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 福祉サービスの利用支援 | 6. 地域における見守り・声かけによる安全の確保 |
| 2. 支援をつなぐ仕組みづくり | 7. 隣近所や地域の力による福祉活動のきっかけづくり |
| 3. さまざまな団体などによる支え合いの仕組みづくり | 8. 地域福祉活動の担い手の育成 |
| 4. 誰もが外出しやすい環境づくり | 9. 活動団体への支援 |
| 5. 地域における防災機能の強化 | |



- 象限A 期待度が高く、取組度が低いため、優先的に取り組みを進めるべき項目
- 象限B 期待度、取組度ともに低いため、他の取り組み状況を考慮しながら改善していくべき項目
- 象限C 期待度、取組度ともに高いため、引き続き推進していくべき項目
- 象限D 期待度が低く、取組度は高いため、取組度を維持しながら推進していくべき項目

※点数化について※

「期待している／取り組んでいる」を4点、「やや期待／まあまあ取り組んでいる」を3点、「あまり期待していない／あまり取り組んでいない」を2点、「期待していない／取り組んでいない」を1点とし、それぞれの回答者数に乘じ、合計した数値を実質の回答者数（全体の回答者より無回答数と「わからない」の回答数を引いた数値）で除した。

5. 新型コロナウイルス問題について

問 14 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に起こった問題や課題はありますか。それはどんなことですか。ご自由にお書きください。

- 定例会の実施に関して行政側の判断にあいまいな部分があった。
- 定期的に伺っていた家で、来ないでほしいと言われた事。
- 今迄の活動の様子が分からないので、それがコロナの影響かわからない。
- サロン等の場がなくなり、家での時間が多くなり体力等が弱ってきている。
- 訪問時の相手への配慮。
- ウイルスが見えないので、相手にどのように対応してよいか不安である。
- 最近救急車が近所によく来る。一人暮らしのお年寄りの家が多く、一日ずっと家にコロナで籠る事が多いからかもしれない。
- 原則家庭訪問はしないという中で、電話などにも出ない方も多く、どのようにすればいいのか、外部からの確認位で良いのか、精神的な負担感だけ大きい。
- 見守りでお宅へ伺う事があるのですが、ほとんどの家で、出てくる方はマスクをしないで出てこられます。あいさつ程度～30分くらい、外で会話をするのですが、みなさんマスクなしなので、対応に困っています。
- 地域のイベントやサロン、お祭り等が軒並み中止に、声かけやコミュニケーションを取る事が出来ず、これでいいのだろうか…と考えます。孤立している方が増えているだろうに、何もできずにいます。昨年までは、地域の行事はとても活発に行われていたのにとても残念です。
- 昨年12月から初めて民生委員になったため、調査、訪問ができず、地域の高齢者の方々と顔合わせが一部の人しか出来なかった。活動が余り出来なかったので、迷うことが多かったが、前民生委員さんや自治会長さんに聞いて助けてもらった。
- サロン活動が休止になり、高齢者の情報がつかみにくなっている。外でもあまりお会いしないので体調が気になります。それでも徐々にランドゴルフや室内での身体を馴らすことをさせている方もいらっしゃいます。不安な気持ちもありますが、コロナに負けないように頑張りたいと思います。
- 65歳以上単身高齢者で、ご家族も来ることが出来なくなりました。ご本人が寂しい思いをされてきました。地区での話し合いにより、本当に安否確認や心のケアが必要な方には、コロナ対応をしながらお会いしていました。コロナで担当している方が亡くなったのを知らなかった。
- 3、4月は自分自身も状況が分からず、地域の事が考えられずにいた。
- 高齢者の方で人間関係が遠くなってしまったと言っていた。
- 訪問自粛による活動の不活発化。
- 外出の不足で運動不足になった→アッピー体操の提案→実行してもらっている。
- コロナで家族から外出やデイサービス等を禁じられて、日常生活に張り合いがないと話さ方がいます。
- 初めはTEL対応でよかったが、長引くとやはり直接会って、会話する事が大切だと感じる。短くとも距離を保って接する方向に行くべき。行事も少しずつ再開させる勇気も大事で、何でも中止はやめ、三密を避けて少しずつ行う方向に向かってほしい。

- 昨年 12 月から民生委員をさせて頂いています。〇〇〇を前人者と回り、今年 1 月から地域をわからないながらも回りましたが、コロナのおかげで、訪問できずにお祝金を届けに回った時はすっかり忘れられていました。
- 私が見守っている中では別に問題等はありません。
- 自治会の一人暮らし対象の茶活会が出来ない。見守り訪問の自粛。子育てサロンの自粛（最近、小人数出始めている）。
- 訪問して顔を見て話を聞くことが出来にくいので、特に 1 人暮らしの健康状態が心配です。
- 調査も中止になり、訪問も控えているので様子を伺う事出来ずにいます。問題は特にありません。
- 幸いコロナによる問題はおきていないが、訪問が出来ないため心配はある。
- コロナ感染予防のため民生委員として単身者、高齢者世帯の見守りに行かない民生委員がたくさんいました。遠くから声をかけたら、電話をかけたりして不安な生活をしない様にする方が良いと思いました。
- マスクの着用が出来てない事。
- 相手の様子が全くわからない。
- こまめに会えない、様子が分からない、コロナの時期はお互い気を使う。返信ハガキを個人で書いて、お便りが返ってきたらつながりが出来るかもと思いましたが、人数分を配布するのは難しいでしょうか？
- 新任の上、コロナの問題で活動していないので課題は無。
- あったか見守りサービス事業、コロナ感染拡大防止の為、家庭訪問しなくてもいい、不要不急の家庭訪問はしないでくださいとのこと。どう見守りサービスをしたらいいのか、チラシのポスティング、電話、どう対応したらいいのか迷ってしまいます。
- コロナ禍の中、活動は対面接触を避ける観点からなるべく活動（対面、訪問、etc）の自粛をしているが、これでは高齢者（特に単身者、足腰の弱い人 etc）にとってみれば逆に不安要素が多いと思う。こういう時こそ声かけを多くするべきではないかと思うが。
- お店からマスクがなくなった時、地域の方から「マスクが高齢者に渡よう市役所に言ってほしい」と言われた。テレビなどで不安が増大されているようで、自分の持っているマスクを少し渡した。
- 調査も中止になったことで新規の対象者の方の顔が分からない。（新任の方は特に困っているようだ。）
- 訪問活動が出来ない状況で情報が得にくい。
- 対面訪問ができない事。
- 訪問が中止になったため、お会いできない状況が続く中で、亡くなった方がいた。家の中での生活が長く、足が弱まり歩行困難になった人。会話がスムーズに出来ない（電話での）。体調を崩し緊急搬送された。
- 国の指示には誠実に従って、自粛、マスクの着用、外出をひかえる等、協力的で活動中に困ったことはない。日本人の規律に従う姿勢に感動しました。
- 見守り活動など対面して顔を見て確認できない事が困った。
- 訪問を控えなければならず、新人なのですが情報がなかなか得られない。
- 感染拡大防止の為、訪問が出来ず顔を合わせてない人も多い。

- 新米の民生委員の為、コロナの影響下で受け持ち区域の方々に顔を覚えて頂く機会も少なく、いかに良好な関係を築く事が出来るかとても心配です。気掛かりに感じている人にも電話で様子を伺うのも考え物ですし、悩んでいます。散歩を兼ねて見回りを取り入れています。朝、昼、夕方と時間を変えて一日に一時間位歩きます（週に3～4回）。偶然気にかけていた人にお会いできたときは達成感を感じます。
- 世帯訪問が早く行う事ができる状況を期待しています。
- 身体を壊されて支援が必要になった方と電話のみでの対応となった。伺ってお話を聞ければよかったのと思う。精神的な悩みを相談された方も、電話だけだと様子が分からないのでお会いして聞きたかった。
- コロナウイルス感染を恐れて訪問を自粛している為、電話連絡をしたいが、オレオレ詐欺を警戒する為に電話に出てもらえない。
- 新型コロナウイルスの発生で、子育てサロンの人数が決められ、たくさんの人に参加してもらえないので、今後どのようにして楽しんでもらえるか、みんなで思案している。
- 対面での対応が中止され、担当地区の皆様と親しく話す機会が減り、担当地区の皆様の様子が把握できないまま、現在に至っています。最近ではマスクをつけた状態でお声がけしつつ、近況を伺っています。
- 昨年12月に委嘱を受けて年明けに前任者と挨拶回りに行ったきり、コロナ流行の為、訪問が出来なかったのも、一度もお会いしていない人もいたり、お会いした方でも名前と顔が一致していません。
- 民生委員が最近来ないと市などに苦情があるとの事。行政側から接触を避け慎重な行動を、と指導されている。見守りの訪問を減らしている人もいれば、変わらない人もいます。具体的に活動方法を指示してほしい。例えば三密を避けマスクをつけて外で対応するとか。
- 単身高齢者世帯の調査が出来ず、実態把握が困難。活動するにあたり、感染防止策。
- マスクをし、間隔を取り、話をする時、高齢の方など聞こえていない時が多く、声を大きくしたり近くで話さないといけないので困る。
- 自粛要請によってすべての活動が停滞し、対象者との接点が無くなり、直接訪問活動の可否に迷いました。自粛期間が長引くにつれ、感染予防に留意しつつ、訪問活動を再開し、皆さん喜んでくださいました。直接訪問してお話しをする以上の安否確認はないと改めて思いました。
- 見守り活動が制約されたので、見守り世帯の情報収集が出来にくかった。
- 個別訪問で待っていて下さる方が多いのですが、迷惑がられた方も数人いました。ショックでした。
- 問題はなかったのですが、3月～6月解除にあたり少しずつ訪問を始めました。訪問先のお相手の方も外出を控えていて、友人とも会えず、一気におしゃべりが始まり、電話ではなく人と人の絆、顔と顔、目と目、見つめ合っておしゃべりをするのが失われていたことを感じました。
- 新しく担当になった人となかなか会えず、電話した時顔を見ていないから安心できないと言われた。コロナで訪問も出来ない時だった。やはり高齢者の方は顔を見せないと駄目なのだと思います。

- 恐くて外出できない方も多くいました。最低限の食品の買い物のみの方も（週1回程度）いました。足腰が弱まってきており、自宅での体操もあまりしていなく、歩けなくなるのではという方もいました。又、1日中誰とも話をする事がなく、訪問時何日かぶりに話をしたという方もいました。せめて話し相手にとっています。数人程度で話が出来場所でもあればと思っています。
- 外出の機会が減り、人との会話の場も少なく家に閉じこもる傾向が続いている。老人施設への入所、数名の方が亡くなるなど今年ほど強く感じた事はありません。地域で集まる事もなくサロン等も中止。訪問活動も自粛、安否確認がなかなかしづらい状態にある。
- 家族が東京へ週2、3回仕事で行くため、担当のお家へ行くときにマスクをしていても心配でした。
- 対面が難しい。私が遠慮してしまう。
- 高齢者は外出を自身で控えていて、3カ月も外に出ていないと話されていた。買物等は、子供が送ってくれていた。しかし子供等がいなく、自分で行かなくてはならず、行く回数を減らしたり、一度にたくさんの買物をしたりする方もいて、暑い中大変だったとの事。
- 毎年3月に高齢介護課から単身高齢者調査を依頼されているが、新型コロナウイルスの影響で中止になってしまったことにより、2年もの間、状況を把握する大切（大事）な訪問の機会を失った事はとても痛手であった。新任の民生委員にとっても勉強、経験の場として大切な調査であり、非常に残念に思いました。
- 1 問題：委員同士が簡単に話し合う事が出来ず、電話連絡となり回数が減りました。
2 訪問：訪問する為に行くと、コロナになりたくない話し合うのをきらった人が居ました。
- コミュニケーションが減った。
- 活動全体が進まないのので気力が落ちる。民生定例会に市職員や社協担当者が不在の為、全体の活動を進めていくための話し合いがない。
- やはりチラシ等の配布時に声かけをしようと（しても）思っても出てこない人が多い。オレオレ詐欺の問題もあるので、子供からでないように言われていると思うので余計に感じる。
- 活動自粛するようと言うだけでは具体性に欠ける。これでよいのかと思いつつながら必要とする人は訪問し、面談このような時だけに活動すべき。意識は医療従事者と共通するものがあると思う。
- 敬老祝い金や敬老祝品の届について、訪問されることを快く思われない方が複数居られ、他の方法が検討されたのかどうかの質問がなされた。
- 集まりが出来ないため、一人一人の顔を見て元気がどうかの様子を伺う事ができない事。
- 感染防止の為、対面訪問が出来ない中、担当地区の状況把握が難しいです。大人数で集まる事が難しい状況で、これからのサロン活動をどのようにしていくのが課題になります。
- 高齢者の方々と話をする機会が行事等中止により減ってしまい、状況がよく伝わりません。
- マスク等十分な感染対策をしていても、手でシッシとされたことがある。
- 対象世帯への訪問が出来なく、活動休止が続いている。
- 個別の訪問をどの程度、行ったら良いか迷っている。
- コロナ禍の中、対面は無理かもしれませんが、ちょっとしたお手紙を配布（手書き）したところ、「とても嬉しい、元気が出る」とお電話やSMSをいただく。ある人は丁寧に暑中見舞いのハガキを頂く。
- 気がかりな方がいても、訪問が難しかった。

- 訪問活動、調査などが出来てなかったため、単身の高齢者の方々が、今どのような状況にあるのか分からず困る。
- 最低でも月に1~2回程度の訪問を実施していましたが、コロナ感染防止のため訪問、面会が出来ず心配です。チラシの配布時に紙面の端に必ず「民生委員〇〇」と書いてポスティングを実施しています。これを行うことで誰がチラシを入れたのか不安になられる方がいるようなので、自分は実施しています（部数によっては大変な手間です）。
- 民生委員1年目でコロナ問題が発生したため、活動の内容も分からないまま今に至っている状況です。特に担当地域が離れているため、各戸を訪ねるのに必死でなかなか難しいことが多いです。
- 独居高齢老人が会話の機会が少なくなり認知症気味になった。
- 上尾市は陽性の方が少なく良いのですが、敬老祝い金、記念品を持って行ったとき、8割の高齢者がマスクをしていない。近所の方、友達とどう接しているのかまだまだ心配。
- 訪問接触の機会が殆ど出来なくなったため情報不足となっている（特に今年度から新任となったため）。
- 活動を自粛しているため、問題や課題はない。
- 新型コロナウイルス対策として、接触を保つことが困難になり自粛したこと。
- 積極的な活動は控えるという方針の中でも、待たなしの事態は起こり、雨戸が開かない。呼び鈴、電話にも応答なしの高齢の方の事例などもひとつではなく、電話連絡だけでは済まないことも多くあった。
- この期間中、今のところ相談事の問い合わせ等は何もありません。熱中症のチラシ、悪質詐欺に気を付けましょうのチラシを主に一人暮らしや気になる人優先的にメモ（訪問活動は自粛していますが、気になる事、困ったことがありましたらご遠慮なく連絡ください）を添付して配布しました。4、5人の方から元気になっています、と電話頂きました。
- 単身高齢者調査も高齢者世帯調査も中止になり、民生委員になってから一度もお会いできていない方が殆どです。本当はこのような時期でひきこもりがちになっている高齢者が多いと思われるのに、お会いできないのがとても残念です。
- サロン中止になり残念という声を聞く。
- 認知が進んでしまったかと思われる方がいます。家にこもってばかりでは問題があるのかもしれない。
- 訪問して玄関チャイム（インターホン）の対応で生活状況が見えない分、心配することがあります。
- 訪問が出来ないため、面会しての話が出来ない。
- 問題は発生していないが、スーパーなどでお見掛けしても気軽に声をかけてよいか迷う。
- ①訪問することが出来ないため、電話で安否確認をしましたが、日頃電話に出ないようにしている方が多く、相手の方が出るまで呼び鳴らし続けることが多かった。
 - ②電話で話が出来ない人には手紙をポストに入れた。
 - ③急ぎの時、電話連絡は難しいのではと感じた。
 - ④自分自身がコロナストレスから体調を崩してしまい、活動が出来なくなり辛く苦しかった。

- 孤立しているお年寄りが多い。コロナウイルス発生後も、月 1 回の訪問をしていますが、堰を切ったように話をする方が多いです。行政が主導していた体操、その他が全部ストップしてしまい、行き場のない方々のストレスの為だと思います。
- 訪問をためらう。回っていても回って良いのか不安。
- 町内のサークルに入っているのですが、全部中止で困りました。活動も訪問が出来ません。心配しているだけ！
- 会って話をするのが民生委員活動の基本だと思うが、それが出来ない。
- サロン等集まれる場所の提供が出来ない。
- 春からずっと単身高齢者への訪問を控えるように、とのことで顔を合わせていないことが心配です。今年の名簿を貰っても調査をしていないので、このままでいいのか気になっています。
- 集まる自由がなくなった。家から出られない不自由な生活をしている人が多い。
- 外出を控える高齢者は足腰が弱くなったり、筋力の低下が起こっている。体力が落ちているのが心配。
- コロナに対する意識の差が大きく、マスク無しで外でお話されている方も…家にひきこもって全く姿を見ない方もいる。
- 昨年の 12 月に就任したばかりで、コロナで活動が出来なかったため、民生委員が代わったことや、ご挨拶も全て自分で行ったが、顔を覚えてもらえず不安だった。もう少し行政からの高齢者への伝達がほしかった。
- 戸口訪問が出来ないので新高齢者の方の顔が分からない。
- コロナで家にいたり今まで外出してスポーツジムに行っていた方が、行かなくなり運動不足になりヒザを傷めたりしている方がいたりで、一人暮らしの方は話す相手がいないので元気がない気がする。
- コロナの関係で、今年 3 月から訪問はしなくて良いとの事。今まで最低 1 ヶ月に 1 度位はお会いしていたので変化が分からず困りました。
- 外で交流できないため、体力が落ちている方が多い。特に足が弱っている。話し相手が出来ないため、家にこもりがちである。
- 高齢者の集まり（アッピー体操、サロン等）が急に中止になったこと。
- ①訪問活動が出来ない。②サロン活動等、人が集まる活動が出来なかった。
- ①地区民、児協で計画した行事、社協支部行事も殆ど中止となり、情報交換は定例会のみとなり、相互協力体制が構築できない。
 - ②対象高齢者世帯への訪問も制限され、皆さんはストレスも溜まり、体調を崩す人が多い。
 - ③巣ごもり気味で家の中で転倒したりする事例が増えている。
 - ④話す機会が極端に減り、認知症が進んでいるような感じを受ける。
- 普段仕事で交通機関を利用しているのでうつしてしまうかもしれないと思うと、活動がなかなか出来ない。
- 訪問出来ないこと。単身者がどのような生活をしているのか電話で時々話をしている。ポストに定例会の配りものを入れる。サロンの情報をポストに入れる。時々脳トレみたいなものを一緒にいれる。
- 外出制限が続くなか、認知症が出てきたようだ、と家族の人に言われた。サロン、いきいき等、積極的に参加されていたので、その場がないことの影響が大きいのかな。

- 話したいと呼ばれたお身体の悪い方のお宅へ伺った時、立ち話が出来ないため部屋に上がり大きい声も出ないので、近い距離でお話することになったことがあります。私はマスクをしていましたが、先方は自宅内ですのでされていませんでした。もしどちらかがコロナにかかっていたら、と少し不安になりました。
- コロナ禍の中、活動出来なかったので特にありません。
- 隣近所は何も変わっていません。
- 5月頃は高齢者のひきこもりが多く、運動不足。会話も少なく心配してしまいました。やっとグラウンドゴルフ等、外出する機会が増えて良かったと思っています。
- 今年初めて民生委員になりましたが、活動が自粛されたため、地域の方との接触する機会がなかったです。まだ、色々な問題が見えてきていない状況です。
- 地域の方のご自宅に伺う時に、「三密」状態になる可能性があること。
- 三密を避けての行動が難しく、中止となった行事が多かったが、今後は with コロナの生活の中でも、対策や工夫をしながら少しでも以前の活動に戻していきたい（サロンの活動など）。
- 気軽に訪問出来ず、電話やメモによる対応でゆっくりとお話を聞くことが出来なかった。
- ①「自粛」しなさい…と言われても、孤独死の心配な人には TEL または手紙を入れて対応したが、最近では訪問して見守っています。
- ②消毒、マスク、近寄らないなど感染予防はしています。
- ①家庭への訪問に気を遣っている。
- ②夏は戸外で話を聞くようにしていたが、熱中症になりそうだったので殆ど活動出来なかった。秋になってから訪問している。
- ③小学生の授業について不安定な気持ちのお子さんが出てきているように思う。家庭への見守りも大切である。
- 単身調査、高齢者世帯調査が、コロナ禍のなか、思うように活動出来なかった。新規でリストアップされてきた方々に対し、家族（65才以下）との同居であるかどうか、悩みを抱えていないかどうか確認出来なかった。
- 活動の自粛によって訪問中止。
- ①訪問出来ないこと。②電話しても出てくれないことが多く不安になる。
- 三密回避問題で面接が出来ない。
- 地域の色々な活動が中止となり、交流がなくなり外出を控える状況。①カラオケ教室②お茶会、コーヒーサロン③お祭り、ラジオ体操、盆踊り、運動会、餅つき大会 etc 人々との関りがなくなり、体力の低下や認知症が進行しているかも…
- 毎月お手紙を渡していますが、直接会えなくて寂しいという声もあります。個人情報の手が大変である。
- 民生委員さんお金を貸してくれないかという問い合わせあり、いきなり電話にてあったものでビックリしました。社会福祉協議会を紹介し、だめであったら市の福祉課に相談されることを勧める。
- チラシ（熱中症等）のポスティングで入れないでくださいと言われたこと。
- ①直接会うことが出来なかったため、ひとり暮らしの方で不安を感じた方がいらした。
- ②配布物の用紙に訪問出来づらい状況を知らせたり、困った時は連絡ください等の一言を付け加えてポスティングした。

- 本来の活動が出来ないことです（直接お話ししたり等…）ただ自分は個人的に多忙なためポスティングだけで終わる仕事はとても助かります。
- 訪問が出来なかったこと。
- 昨年の12月から民生委員をさせていただいているのですが、担当地区の皆さんの顔など覚える前にコロナの自粛期間に入ってしまった、あまり地域の皆さんに関わることが出来ませんでした。
- 家庭訪問をしたり、対面での話が出来ないことに関して不満を持っている方がいました。その方からは遠くからの見守りだけでなく直接来てほしいと強い口調で言われました。
- 現在の所、問題はありません。コロナの終息を望んでいます。
- 初めて民生委員となり、訪問回数が1~2回程度しかしていないなかでコロナ問題があり、全く思ったように活動が出来ないでいます。困っていることや相談など支援が出来なく、このままで良いのか？私たちに何を求めているのか分からないでいます。
- 訪問をなるべく控えるようになって、なかなか担当区域の方々のお顔とお名前が覚えられない。
- 訪問する場合、気を遣う。
- コロナ禍で訪問原則禁止の中、紙ベースもコロナ菌が生きているという情報が流れる中、ポスティングもためらわれたが、今はポスティング位しか出来る活動がないということで定例協議会毎に多くの紙資料が配布されているがどんなものか？実際はインフルエンザ無料接種資料が足りなく、市庁舎まで30枚ほど貰いに行った。でも心配はある。
- 直接ご本人とお会いすることが極端に減っているため、現在の様子を知ることが難しい。
- 直接伺って色々とお話が出来なくなり、心配に思う時があります。
- 感染防止のため、個別訪問が出来ず、お元気かどうかの確認が出来なかったので外から見守ることしか出来なかったこと。
- 見守り対象者に直接会えないこと。

問 15 新型コロナウイルスの問題の発生に関連して、民生委員・児童委員の活動中に、困った人を見たり聞いたりしましたか。それはどんな人ですか。ご自由にお書きください。

- 外出するのにマスクを忘れてりする。
- 母子家庭で、息子は働かず母がパートで家計を支えているのが、コロナでパート収入が減り困っている。この先が大変心配である。
- 自粛でいろいろな催しが全て中止になり家に籠っていて、体力、特に脚力がすごく落ちた。ずっと家にいて気持ちが沈んだり、意欲が無くなったという方もいた。（知人の高齢の方で、担当地区の方ではありません。）
- アッピー体操やサロンが行えず、運動不足だったり、1日中誰とも会わずしゃべらない高齢の方がいると聞きました。子供も、休校だった授業数の穴埋めで暑い8月中旬に登校したり、行事が中止になったりしていて、ストレスが多くなっていると聞きました。
- 新しい生活様式の取入れを出来る人と出来ない人（例：マスクをしない方もいる）
- マスクや消毒がないと困っていた。今は解消している。
- 熱が出ても診てくれる病院がない。かかりつけ医といっても6ヶ月、1年くらい病院に行かないと、かかりつけ医ではなくなり、断られる。救急車で運ばれるほど重篤になるまで「様子を見て下さい」と言われる。←かつて、孫が熱が出て、その様子を心配し話をしてくれました。

- 単身高齢者が他県に住む家族に会えなかったり、一人での時間が増え精神的に辛いとの事。夫婦で高齢の場合はまだ相手がいるので安らぐが…。色々な対策はまず単身高齢者を第一に考えて、集まれる機会、方法を考えてほしいとの事。
- 地域の活動を聞かれても、やっと定例会の事や預かった書類がとても大切である事が分かりました。コロナのおかげでほとんどシステムが分からないまま1年間が過ぎます。
- 外出しなくなった方が多くいた。
- 施設入所者の家族と自由に会えないので、又単身者には特に認知症が進んだ様子だと聞いています。
- 一人暮らしでコロナに無関心。散歩して自宅に帰っても、手洗いうがいをせずに生活している。
- 全くありませんでした。
- 一人暮らしの人が何か具合が悪くなった時に本当に困る。他の市では家庭に話出来るラジオを配布して、それで何人かと様子が話し合えとか、そんな何か見守りになる物を設置しないと発見まで手遅れになるケースが出てくると思う。
- デイサービスの休み、各イベント、行事も中止で高齢者は以前に比して家の中に居る機会も増えた事も有り、困ったことは聞いていない。
- マスクや消毒液がなくなるなかで80代の高齢者が外出するとコロナウイルスがうつるのでは、と不安感がいっぱい「うつったら、すぐ死んじゃうから」とほとんど外出しなくなり、「体力が落ちてしまう」と心配していた。
- 多くの方が新しい生活様式にならないマナーを守って生活されていた。
- 不登校、集団生活に慣れるのに困った。
- 相談したい事があるが、コロナで来て頂いても良いのか迷っている方がいました。
- 単身者の方でベランダの手すりに寄り掛かろうとし、転倒しけがをした。通院中。
- 国の指示には誠実に従って、自粛、マスクの着用、外出をひかえる等、協力的で活動中に困ったことはない。日本人の規律に従う姿勢に感動しました。
- 通常は病院へ通院するのに、コロナの影響で移ってしまう事が恐くて通院できないと聞いた。
- 外出控えのせいなのかわかりませんが、トラブル（ゴミ出し、家庭内）が多くなったように感じます。
- 新聞によりますと、夏場から自殺者急増しているとのこと。私の担当区域にも70才後半以降の単身者の方が多いのでとても心配です。今のところ、具体的には、心配な人は、運動する機会も少なくなり、転んで怪我をした方が2人ほどいました。「コロナうつ」のことがとても心配で、今私の一番の気がかりです。
- 月に一度のサロンも出来ず、もちろん訪問も出来ず情報自体が入ってきません。たまたま国勢調査の調査員をした時に、訪問した見守り対象者の方の認知症がひどくなり、身体的にも弱ってしまったのを見かけてとてもショックでした。
- 病院への通院を心配していた方。外出できず、運動不足、足が弱くなってしまうと心配していた方。施設への面会や病院へのお見舞いに行けず困っていた方。
- ある婦人が自宅ですと外に出せずに、体調をくずし病院に行きたいけど、木曜日で近くの病院は休みでした。どこかないかと連絡をもらい調べたが、どこも休みで結局翌朝かかりつけの病院へ行った。熱中症も心配したのですが、原因はコロナで家に籠りきりからのストレスだったようです。救急車は呼びたくない。木曜は午前中だけの病院も多いようで困ったようでした。

- ケアハウス入所希望者がコロナの影響により、受け入れの準備が進まず、入所に時間が（約2ヶ月）かかってしまった。
- 年齢が高く、マスクがどこに売っているかわからず、買えないので外へ出なかった。
- 人との交流が少なくなったので、ストレスを感じる人が増えた。
- 外出する人が少ないので声掛けもできない。（困った人なのか何で困っているのか把握できない）
- 具体的に話したり、相談を受けることはない。
- 担当区域では全く感染者、接触者はなかったので困った事はない。聞いたりしたこともない。
- 収入減少により生活が大変になった人がいた。
- 病院へ行くのをためらっているうちに、病状が悪化してしまった。
- 必ずマスクをして対応すべき時は備えています。訪問先の方がマスクをされていなかったり、長時間の在宅の為に会話が長くなってしまうことがあります。敬老の訪問時にはやや困りました。
- 家族間の往来が制限され、単身の高齢者に家族の見守りや支援が及ばないこと。
- 高齢者で国民年金だけに低所得者で生活されていて生活保護を進めてみましたが、自分でもう少し出来るまで頑張ってみると話されていました。
- 圧迫骨折となり介護保険を受けたいという連絡があり、包括に連絡、1日見学に行ったが、コロナになったらと不安になり行ってない。
- 外出が出来ないため、孤立してしまいがちである。
- 真夏の暑い最中でもマスクをつけ続けなければならず、顔に湿疹が出来てしまった人がいた。
- 地域でのコミュニケーションの場がなくなり、またデイサービス等も控えめになり、意欲、体力が低下し家に引きこもりになり、日常生活に人の手を借りるようになってしまった。
- マスク着用をしない。（強制は出来ないが、自分は大丈夫だと言って、大きな声でしゃべったりしている）買い物や通院も。
- マスクが無くて困っている人がいました。
- 感染予防の為、対面しての訪問を控えているので、精神的に不安を抱えている方から夜遅く電話があり困った。1時間経ってもお話が止まらないので、また後日お話を聞くことにして、やっと受話器を置くことが出来た。（コロナ期間中3回程あった）
- 困った人がいたかもしれないが、民生委員まで届かない。届く前に解決してくれれば幸いだが、何も知らないのも不安だった。
- コロナ禍で上尾市の行事が取りやめになり、外出機会が減り気力が沈んでいると話されています。
- 何かあると電話をいただいたり、少しは訪問もしましたが、おひとり暮らしの方は一日中誰とも話さず大変だとの事。やはり人と人とのつながりが大事だと思いました。
- 足腰が弱ったという声を良く聞きます。買い物にも自転車でいけなくなり交通手段がなくなっている。
- 以前、よく散歩していた人を見かけなくなった。コロナが恐くて外出をしない。筋肉が落ちてきた。頭の中に幕があるみたいで、認知症になりそうで心配。
- ①マスクが購入出来なかった。②消毒液が購入出来なかった。③家にこもりがちになり運動不足。
- ①体調を崩す人が多く、感染を気にして病院へも控え気味となり、更に悪化させるケースが見られる。
②サロン、アッピー体操、オレンヂカフェ等が中止、延期となり、運動不足やストレスをどのように解消すれば良いか分からない高齢者が多い。

- 一人住まいの高齢の方は話す機会が少なく、精神的に不安がある。
- ①体調がおかしい、認知症がある（単身者）。②外に出ないで家にいる。
- スーパーで買い物する時もマスク着用は当たり前です。対面で注文したい商品を言い、お金のやり取りをするお店でもマスクをしないで買い物する高齢の人がいた時はビックリしました。マスク必須、気配りしてほしいですね！
- 入院中の家族を見舞うことが出来ない、施設にいる家族と会うことが出来ないなど、感染予防対策により、不便さや寂しさを味わっている人がいた。
- 人によってコロナに対する考えが違うので、人と接するのが難しい。
- 感染を恐れて閉じこもり、精神的にも体力的にも弱くなった人が数人おられたので、時々TEL や場合によっては訪問して、心と体のケアを心掛けました。
- ①地域の活動が全部中止になったので家に閉じこもっていることが多い。買い物に行くにも心配している。
②医療機関への受診も控えていることがある。
- 新型コロナウイルス禍の間に「あったか見守りサービス」の依頼をしたが、見守り隊活動の自粛中であり、なかなか訪問に至らなかった。
- ①高血圧の単身高齢者。②認知症を隠す人。
- 特に衛生用品の入手が出来ず、外出もままならなくなっていった。マスク、体温計、アルコール消毒剤など。
- 認知症のひとり暮らしの方が、夏場外からしか見られないようだが、暑いのにエアコンを使用していなかった様子で、介護施設へ行っている時は良いが、行っていない日とか夜が気になって何度も何度も見に行ったりし、とても気にかかった。ケアマネージャーには電話を入れたりもした。
- 妻が施設に入所したために妻に会えないとのこと。
- 母親の介護のことで相談を受け、包括支援センターに連絡し、二回程話し合った。また家庭を訪問して生活について話し合った。
- 人との接点が少なく孤立している人が多い。
- 委員としての役割が出来ていないので、困った人や相談に乗る様な人には出会っていません。
- 高齢の方の外出の機会が減って、色々なことに少しずつ興味を失っていらっしゃるような気がする。
- コロナの為、外出出来なくなり、体力が落ちたという方がいらっしゃいました。また、サークルなどに参加出来ず、外の方と繋がれず刺激が少なくなったという方もいらっしゃいました。
- 上尾市より、高齢者インフルエンザ予防接種のお知らせを配るよう依頼があり（10月中旬）配ったところ、お医者に予約の連絡をしたところ12月になってしまったとのこと。10月1日から接種は始まっているのでもっと早くに知らせてほしかったとお電話を頂きました。

問 16 新型コロナウイルス問題の発生に関連して、行政に協力してほしいことや提案したいことがありますか。ご自由にお書きください。

- やむを得ないことではあるが、諸活動が止まっている。何か新しい施策を、と思うが具体的に思いつかない。
- 民生委員の活動が制限されている分、行政側が調査活動等、直接実施しても良いのではないか。
- 毎月定例会が開かれるが、コロナ時には行政から定例会の開催をやめるよう一斉に各支部に伝えてほしい。各支部での対応が違っていると聞いている。
- 早くコロナのワクチンや薬が出来てほしい。
- 経済の援助。
- 一人住まいの方々是对話が必要と思う。
- 高齢の方は、自分はあまり出歩かないから大丈夫と思っている節があるような気がします。お店などの入口にある消毒もサッと通り過ぎたりする方や、マスクをしても耳が遠いので仕方がないのかもしれませんが、お店の中で大声で話していたり、手袋であちこち触って、スーパー等の食品なども手袋のまま触って選んだりします。身を守る為に、何が有効で何が有効ではないのか、よくわかってないような気がします。それが、だんだん格差が激しくなっていると思います。病院から帰ったらシャワーを浴びるのは大変でも、きちんと手を洗ってうがいして顔を洗って着替えましょう、くらい、個人的に薦めても無視をされるので、行政が動いて下さると、身を守る意識の格差が少しはなくなると思います。
- PCR 検査を気軽に受けられる様にしてほしい。助成金を出してほしい。クリニック等で受けられる様、整備してほしい。
- 陽性になった場合、分かりやすく早急に対応してほしい。一日でも早く無償でコロナワクチンを供給して頂きたいと思います。このまま感染者が増え続けていった場合、早めに自粛体制に戻った方がいいのではないかと思います。
- 民生委員、児童委員定例会では、コロナ対応で担当する方達にお会いしないでと伝えられたが、本当に会うことが必要な方たちにどのような接し方をすべきかを示して欲しかった。(お手紙のポスティング、電話はしていましたが) 長引けば心は病んでいくと思います。
- まだまだ分からない事が多い中、民生委員の活動も個々の判断によるところが多いです。きちんとしていた指針があればいいと思う。こんな時だから、これからいろんなことが少しずつ分かり、対処できる事も解ってくると思う。行政の指針等に期待しています。
- 感染拡大防止の為、濃厚接触者だけでなく、誰でも PCR 検査が無料で受けられるようになってほしいです。
- PCR 検査を受けるための情報、市内のコロナ患者(入院者、自宅待機者)の現状情報の発表。
- 誰にとっても、人生初の感染予防の毎日を過ごさなければならない日々が続いている。家の中に引きこもる事は仕方がないが、会話のない生活は認知機能の低下につながるので、近くのサロンを再開してみるのもそろそろいいのではないか? 三密は避け、マスク、消毒は必須が新日常と言う事で、徐々に慣れてゆく方向でどうでしょう。
- コロナウイルスの感染拡大の啓発は多々あるが、熱が出た時の受け入れ病院が不明。ホームページのセンターに相談しても「様子を見てくれ」の一点張り、病院を案内する所ではないとまで言われるらしい。熱が高い時、病院の案内をする。PCR 検査の案内をする。病気を診てくれる病院の案内をする。この一番不安で大事な問題を行政は確立してほしい。

- 三密にならない所、日常生活で少し安心な場所、高齢者の方でも行くことが出来る方法や、ちょっとしたアイデアを広報等でお知らせ下さればと思います。
- 第 3 派のコロナ発生がこの秋以降起きた時、ウイルスに感染した人の家族に対する予防対策をどのように行うか示してほしい。ウイルス検査だけをおこなう医療機関を作ってほしいし、ホテルではなく病院もしてほしい。
- 高齢者の外出自粛が長引く中、何か楽しく毎日過ごせるもの（事）があれば。
- コロナウイルス感染拡大防止を図るうえ、何もかも中止となる事が多い中ですが、最大限の対策を取ったうえで、困っている人達の話し相手、活動（調査）はこのコロナ禍だからこそ私達はすべきだと思っています。まして新委員が多い今年度は感じています。
- イベントや会議、行事等、中止になる場合は早めに連絡がほしい。もっと医療機関で PCR 検査ができればよい。
- 行政も大変だと思しますので、協力は無理かと思えます。
- 生活がっぱいの老人一人暮らし、クーラーもなく家も古いとか、布団の中で寝てばかりです。買物で足の運動をしているとか、夏は暑さで外にでて木陰で涼むらしい。熱中症の心配、これからは寒くなるので風邪が心配。そんな人にはどう提案したら良いのか？
- コロナが発生して困ったことは、マスク、消毒液等がなかなか手に入らず、高齢者等に対策が出来なかった。
- 情報は TV 等で入ってくる。行政側は心配な点は理解できるが、過度な自粛要請はかえって不安が増す。高齢者は自分の事は良く分かっている。
- コロナウイルスに関する、正しい情報が地域に伝わってこず、上尾市として、今どうしようとしていることがわからず、より不安になった。情報発信の方法を HP、SNS、広報（内容に緊迫感がなかった）だけでは、伝わらないので、より丁寧な対応をお願いしたい。
- 調査について通常の方法ではなく別の方法で実施しても良かったのではないかと。ポスティングさえ接触を嫌う方も見受けられたが、郵便という手段で時期をずらしても実施する必要があると考えます。
- 全ての人に PCR 検査が出来るようにしてほしい。
- コロナウイルスの状況、推移、重症者、軽症者などインターネットを調べずとも情報が得られるように、公民館・支所などに数字掲示出来れば、インターネットを使用しない方にも情報が行き渡り、予防対策の意識向上につながるかも。
- コロナの影響で商売や会社が上手くいけなくなり、生活が苦しくなっている人がいると思います。何らかの助けをお願いしたいと思います。
- 定例会にて行政からの配布物がありますが、枚数がいつも不足しています。対象者（単身者、高齢者夫婦）全員に行き渡る枚数を増やして欲しい。
- 感染防止の為、安否確認、リーフレットの配布等、電話等で済ませて訪問しないという行政からの指示でしたが、民生委員は地域の皆さんに寄り添った活動を望まれていますので、急に顔をださないという事に不安があると思います。電話が来て多忙です。行政として、イラスト入りのコロナ対策とか、症状に不安のある場合どこへ相談して下さい等のアドバイスの、リーフレット等配布できるものを作成して頂くと有り難いです。埼玉県で出したリーフレットにコロナの心配、不安のある方は〇〇へ TEL して下さいというのがありました。とても親切だなと思いました。（でも TEL が混んでいてつながりませんでした）

- 民生委員も高齢者との接触が多いので、高齢者を見守る点から PCR 検査をする対象としてほしかった。
- 感染者数が新聞で発表され毎日のように増加しているが、完治した人数が発表されないので不安をあおるばかりである。PCR 検査もどこで行われているのか、どのくらいの日数で判明するのかなど市民が知りたい事が、伏せられているように思う。
- 行政、指導で進めて下さい。
- 福祉活動に関わる皆様のご苦勞は大変なものとお察しいたします。要望はございません。皆様お体に気を付けて頂き、行政と私たち市民と力を合わせてコロナウイルスに勝たねばなりません。民生委員も気持ちを引き締めて、協力をしたいと改めてお約束をします。
- 感染拡大を防ぐために、アップ一元気体操やサロン活動ができなくなり、高齢者が参加する場所が無くなりました。それにかわる事を考え、実行してもらいたい。
- 昨年末新任の民生委員です。災害時要援護者の方がかなり多いです。9年前の東日本大震災時、前任者の方は一日で見守られたそうですが、その当時に比べて高齢者の数（単身者も）は増えていると思います。コロナ禍の中、安否確認、諸対応できるか悩みます。
- コロナウイルス感染疑いのある人は早めに PCR 検査を受けさせて、感染が拡大しない様に隔離する事を優先させてほしい。
- 金銭的に困った状態になってしまった方がいらっしゃるのではないかと思うのですが、ご本人たちからは（誰からも）相談はありません。かといって、困っていませんか？と聞いて歩くわけにもいかず、心配しています。行政の側で納税の関係から困った状況に陥った方を見つける事は出来ないでしょうか？リストを頂ければ、最近どうですか？と訪問してお話を伺うとか、いろいろな案内を教えて差し上げるきっかけが作れるように思います。
- 正確な情報の提供。
- 皆で頑張りましょう。
- 感染拡大を予防するという事はとても大切な事と思います。この時、命を守るという言葉がとても効果的であったと思います。ただ、自粛という事をどの程度に考えるかを私達一人一人に任せられたようで、その範囲の判断に迷いました。それに伴って責任も負わされたような気がしました。もう少し明確な指針があっても良かったと思います。
- 大勢の方に PCR 検査を実施してください。
- 行政からの自粛解除を望む。地域での集まり、サロン等は①除菌体制②マスク着用③ソーシャルディスタンス④換気など、最低限度の配慮したうえで実施する事を条件に。地域の見守り体制は民生委員だけでは限界に近いものがあると感じている。
- コロナ禍のもとでも出来る事を行政からどんどん発信してほしい。
- 活動に必要な情報は的確に速やかに伝えて（知らせて）欲しいと思っています。
- コロナ対策でなんでも中止でなく、出来る事はしてほしい！
- 高齢者の皆さんはお友達にお会いしたい。会えなくて寂しいとのお声を聞きました。
- 新しい人と人とのふれ合い。
- ①民生委員の定例会議に行政の担当者（市、社協等）の情報がほしい。（他地域の情報、市の施策等）
 - ②コロナウイルスの陽性者数等は発表があるが、陽性になった人の分析結果（主要因、男女別）などがあれば、公開してもらいたい。…特に高齢者の生活上の注意点など。

- 各地区のいきいきクラブで積極的にグランドゴルフ等の集まりを行っておりますが、高齢者ですので自粛するように通達してもらいたい。コロナを軽く考えているようです。
- 国、県の方針が優先。市、行政、独自の事は難しいのでは、感染（陽性）らしいと判断された時の受診できる医療機関、保健所等の紹介がスムーズに、家族や近親者が差別を受けたりすることが無いように。
- コロナ禍、面談や訪問、集会活動等を極力避けて各事業を進めて頂いておりますが、その対応に一貫性を欠く場面も時折見かけます。是非、横の連携を密に取りながら行政指導をすすめ、同一場面では同一歩調で関係機関が対応出来るようお取り計らい願います。
- マスクの配布など。
- 道路にマスクが落ちている事が多いが、感染してしまうか心配でそのままにしてしまう。どうしたら？
- 新型コロナウイルス問題の長期化により、これからの展望をはっきりと示してほしい。
- 私の担当地域に関して、マスク、三密、うがい、手洗いを徹底された人々が多かったので助かりました。市長のテレビの影響が効果的だった。
- 啓発チラシ等は最低一人30枚以上欲しい。直接面談できないので、せめてチラシのポスティングで民生委員の存在をお知らせしたい。
- 対象先へのコンタクトをとるグッズなど考えてほしい。
- 発生状況や発生場所等についての情報をもっと発信してほしい。
- アッピー元気体操も長い間中止になっている。こんな時だからこそ違う形で高齢者をフレイルから守る活動があってもよいのでは。すべてのイベント（公共的）を中止するのは簡単であるが。
- 問14で記したことで協力の提案なのですが、行政からのチラシは担当者との世帯数分希望します。（自分は不足分をコピーしています）（連絡すればよいとのことなのですが、その間はないです）更に手書きしている「民生・児童委員」の文字を紙面の端に印刷して頂けませんか。氏名は各々担当者が書くか、押印すれば良いと思います。（民・児委員経由で配布するもの）ゴム印でも可能ですね！
- 発生地域の情報の開示して頂くことにより、二次感染が予防出来るのではないかと。
- 発生情報を知りたいです。（私は上尾市コロナで検索しています）
- 新型コロナウイルス発生場所。プライバシー保護が必要であるのは分かりますが、発生エリアが分かると活動がしやすいと思う。
- 会議や活動のスタイルが様々変化したが、それによって改善されたことや問題点も明らかになった。改善すべき点はこれを機会に勇気を持って変革してほしい。例えば日帰り、一泊研修などは、別の研修の形がこれからの民生委員の活動にはふさわしいのではないだろうか。
- マスク着用の徹底強化。（アリオ、コンビニでマスクをしてない人を見かける）
- アッピー体操のテレビ放映が再開されました。前向きに利用されている人が多くおられることと思います。手軽に栄養とれるレシピ（サバの缶詰を使ったレシピ等）脳トレ、読本のようなのを配付してはどうでしょうか。
- ①政府から配布されたガーゼマスクを上尾市に寄付したところ丁寧なお礼状とシールが送られてきました。その手間と費用を本当に必要な方のために使っていただきたいと思います。
②PCR検査を無料又は安価で受けられる様、努力して頂きたいと思います。
- 上尾市がさいたま市を除く近隣の市の中で比較的感染率が高いのをどう考え対策しているのか。

- ①見守り活動が出来ない（単身調査含む）…緩和してほしい。
- ②自分の担当地区の人の様子が分からない。
- ③ご近所の方が気付いて連絡くれた…確認後急速に悪化し入院中。役所は実態調査もせず私に TEL 確認のみ。要介護の認定も「えっ」と思われる程、机上の処理でなく実態を把握しに出向いてほしいです。
- 民生委員より行政の方々と訪問していただけたら本人への説得力は十分を思います。是非安心出来るよう、訪問してほしい。また本人が感染してしまったと苦しんでいる人への対応を考えてほしい。うつ病になっているからと言うだけでなく、自費でも受けられたら 2~3 ヶ月も苦しまないで済むと思います。
- 一人暮らしの高齢者が孤立してしないようにしてほしい。
- PCR検査の無料化。
- ワクチンが開発された折には、誰もが受けられるように援助をお願い致します。
- 今まで行政主導で行われていたことは、工夫をしてまた再開して頂きたい。難しいことだが、年寄りの方々は家から出て、他の皆さんを会うことによって元気が出ている方も多いです。密を避けて出来る方法を考えて頂きたい。
- 各関連部署との連携は以前からするととても良くなり、相談者との問題解決は良くなったと思いますが、反面、民生委員の手から離れて関連部署の方の方に移ると、情報は一切頂けません。（施設入所、入院、死亡のこと等）個人情報という事でしょうが、見回りを続けてきた方の最期等を噂話で聞いたりすると寂しさやむなしさを感じます（コロナとは関係ありませんが）。
- マスク、うがい薬、消毒液等、早く出してほしいです。
- 今のところ、担当している方は気を付けて生活されているようです。今年は無料で 65 才以上のインフルエンザワクチン接種、とてもいいことだと思います。訪問しながらお勧めしていきます。
- マスクや消毒液等の衛生用品を介護、福祉施設に充実させてほしい。
- 情報共有のあり方。老若男女でも分かりやすい行政からの発信。
- 問 14 の続きで、この度民生委員が代わりました等、高齢者宅へのお手紙とかがあってもいいかな？と思った。
- 手軽に簡単に早く手頃な金額で PCR 検査の充実。明確な検査場所の周知。
- 感染防止のため外に出づらくなっているの、工夫して公園や大きな施設を開放して交流できるといいなと思います。
- 今まで通りにやってほしい。
- 問 14 に関してサロン等を 3 密を避けながらどのように行ったら良いか指導してほしい。
- ①新規感染者は 7 月 23 人、8 月 33 人、9 月 6 人に対し、10 月は 17 日現在で 23 名と増加傾向にある。
- ②新聞や市の HP でもどの辺で増えているか全く不明で注意のしようがない。大きなくくりでの地域を示すことは出来ないか。
- ③対策本部も設置されているが、議事録を読んでも単に報告会になっている気がします。また 8 月 31 日以降開催されていませんが、何故でしょうか。
- ④HP を見られない高齢者はどのようにして不安を解消するのでしょうか。
- 近くの病院や保健所でも単身者や高齢者が近い所（地域）を教えてください。もしかかかってしまったら。

- コロナの渦中にある今、自分自身の行動自粛することが社会貢献の一つと思っています。リスクは自分持ちですから、協力や提案は全体を見渡す余裕がなく思い浮かびません。
- 広報に〇〇調査が今年では中止になりました、という掲載は見かけますが、例年のように民生委員が訪問出来ないことももう少し書いていただくと有難いです。
- 新型コロナウイルスに感染してしまった時の対処の方法等、具体的に教えてほしい。
- 今まで通り定例会で色々教えてもらいたいです。
- SNS を利用している人に届く、日々のコロナ情報が、SNS を利用していない人たちにも届くような対策をしてほしい（情報格差が大きすぎると感じる人が多いので）。
- 民生委員として必要かつ適切な情報の提供。
- 公民館活動が復活できる様、体温計の配布など地区単位に送ってほしい。
- コロナ禍で民生委員としての訪問活動が出来ない状況の中、感染防止の注意喚起を手紙にしてポスティングしてきた。今後第3波ともいえる感染拡大が懸念される昨今、行動、環境、生活の仕方、感染が疑われる場合の対処など高齢者にも分かりやすいパンフレット等を作成して頂き、民生委員活動がよりスムーズにいくように協力をお願いしたい！
- マスク、消毒液の備蓄。
- 薬やワクチンに期待しておりますが、委員さん自身も模索しながらの活動です。止むを得ず、しなくてはならない行事でも、万一のことを考えると責任の取りようがありません。せめて上尾市からの指針を示していただき、文書でいただけたら嬉しいです。
- 拡散防止と予防(衛生)用品備蓄を図る。冬季に発生するインフルエンザとのダブルが予測され、その情報に素人には疑問となり不安が多くなる。
- 必要な情報の提供をお願いしたい。見守る上で大変重要です。特に災害の時に誰から助けに行くかなど、防災上もやっているので常に考えています。
- 一人暮らしの認知症の方や何かの連絡(例:介護施設へ入所している方)に連絡しようとしても、連絡が取れないので包括に聞いても教えてくれないので、個人情報も大切ですが、見守りとして何かあった際に連絡が出来ないので。
- PCR検査の充実。世帯1人無償で検査。
- 感染の注意と民生委員としての役割の見守りの難しさがあることを痛感した。
- 高齢者のお祝金をお届けした際、大変感謝されました。行政の協力はこれからもしていきたいです。
- 先日、コロナ対策として、消毒液やマスク等購入金をいただき助かりました。(ポスティング等の時に持参させていただいています)★具体的な「訪問マニュアル」を示していただくと参考になります。いつまで「訪問しないでください。ピンポンしないでください。」というのですか？外から見てその家の人の様子など分かりません。
- ①しっかりいつでも無料でPCR検査等受けられる様！行政の責任です。
②民生委員も安心して活動できるためにも。
- コロナ禍での特別給付金は振り込み出来て、敬老祝い金1万円が手渡しというのはどんなものか。考慮願いたい。
- アッピー体操やサロン活動等が長い間中止になっていますが、コロナ禍でも再開出来るような方法を検討して頂きたいと思います。

自由記述

誰もが住みやすいまちづくりを進めていくためのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

- 上尾市内は災害が少ないので、災害時の避難マップ作成が遅れている（無い所も）。早くマップの作成を指導してほしい。該当者にも周知してほしい。
- 地域の役員以外の方でも良いので、地域のリーダー的存在の人の育成が必要なのでは。
- 地域が活性化するには、何か魅力ないとだめだと思います。地域でのお祭り、納涼祭等、一つの場所に集えるものが必要と考える。最初は大変かもしれないが。
- 地域包括支援センターの活動に感謝します。
- それぞれの分野で相談したい項目ごとに相談窓口と電話番号の図表を作ってもらえると、地域の方々も民生委員もわかりやすい。
- だんだん感染者数が増えています。外出したら、どうして手洗いうがいが必要なかわかっているはずですが、今まで平気だったから以前の生活様式を繰り返している方は多いです。集会所のイスや机を使ってもふかないで片づけるなんて普通に行われるので、私は騒ぎながら一人で消毒液でふいています。そのままの人ばかりだと、希望があっても、集まって何かするという楽しみは、いつまでたっても企画できません。自分の担当の方がコロナになったら、それが自分で企画した何らかの催しだったとしたらと考えると、私は責任を取れないのでサロン会などは再開が難しいと考えます。個人個人がきちんとしていないなあと感じる現在、まずは個人の意識を高める事が一番大切だと思います。何らかの集まりを再開するには、それをクリアしないと責任を取らなければいけなくなると強く、強く思っています。又、コロナの人を出してしまったら、住み続けることが難しくなって、転居をしないといけないかもしれません。私が住んでいるところはそういう地区なので、再開、再開と焦らないで欲しいです。
- 民生委員活動とは関係ありませんが、家族に病気から障害者になったものがおり、いろいろな手続きで市役所へ何度か足を運びました。思っていたより色々な支援があり、医療費などの面でも助かっています。手続きでも職員の方がすぐ調べて下さり、対応して頂きました。ありがとうございました。福祉関係は多くの問題があり、新たにコロナ対応等、お仕事が増え、大変かと思いますが、市役所・社協には頑張ってもらいたいと思います。私も地域から見守りを頑張ります。
- 誰もが住みやすい町づくり地域にするには、一人一人の意識が大切。お互いさま、助け合いという気持ちがないと難しい。道路や公園にゴミが捨てられていたり、特にコンビニ周辺道路はゴミが捨てられていることが多い。皆が協力して、誰もが住みやすい町づくりにしていこうと色々な角度、方面から住民に働きかけ、色々な人の関わりづくりが大切だと思う。自分さえよければという自己中わがままな大人にならないように、小さい子供の時の教育も大事。誰もが住みやすい安全安心なまちを願います。
- 商業施設が家より離れた所に出来ている。車でないと不便なので交通網をもう少し多くしてほしい。近くにはドラッグストアばかりで食品の入手が難しい。
- 行政がいくら方針を出し、地域におろして来ても、地域の日常が「隣近所」のお付き合いが出来ていないと難しい。「昔ながら」を現代社会でどう取り入れていくかが問題だと思う。一番簡単な挨拶、立ち話が一番難しい時代です。
- 市の防災、お知らせの音が割れてしまいよく聞き取れない。
- 民生委員活動と自治会活動の一体化。

- 学童（小学生）の通学路、生活道路での車のスピード→道路にスピードを落とす工夫をしてほしい。
- この先 30 年の間に大きな地震が発生すると言われています。防止体制、地図、近所の助け合いが必要ですので、一刻も早く取り掛かって備えてほしいです。高齢者、乳幼児を抱えた家庭が、どのように行動すればいいか、行政としてどのような策を講じているのか示してほしいです。電気、水道、下水道、道路の問題など多岐に渡ります。
- 毎日の生活が精いっぱい、他人の事は構ってられない時代で寂しく思います。町会の役員も毎年同じで活性化されません。もっと魅力ある地域になる方法を知りたいです。
- 上尾全般を見た場合、〇〇地区の遅れが目立つ（全てに）。早急な開発を望む（地域の協力を得て）。
- 情報を沢山発信して、お付き合いが活発にできる日常になればいいかと思います。
- 人の人格の向上にあると思います。→愛
- 地域全体で高齢化が進み、今後長いスパンでの展望が描けない。自治会役員の担い手も不足し、活動規模を縮小せざるを得ない。
- 自治会での見守り活動が全く進んでいません。会長の力により各自治会の差があるように思います。
- 世帯数が多い所には、民生委員の数も増やすこともやってほしいと思います。高齢化が進むばかりですから、少し見直しも考えてはくれないですか？一人暮らしの人は、本当に不安を考える時があると思います。そんな時どう対処したら連絡が出来るかを考えた時に、個世帯につながりがある、お互いに話が聞ける、相手の様子も解るような器具を考えて設置できれば良いのではと思います。
- 子育てしやすい、そして高齢者が安心して暮らせることが。単身者が増えている感じも受けるので、やはり不安が？これから東北大震災のような災害が発生した時、対応できる施設等の整備があれば安心。
- 益々高齢化が進む中、住みやすい街づくりは①福祉②防災（いつ、なんどき）に尽きる。→誰が誰をどんな方法で避難させるか決めておく様な地域風土の醸成が不可欠。→お互い様の精神→誰しもがいずれ行く道で自分事と考える→このことを一歩ずつ詰めて行く事だと思う。
- 誰のところに常に視点が置かれて考えるように、意見を聞く努力をしてほしい。「住みやすいまち」にするためには大元で何が大切なのかをおさえて、考えていく必要があると思いました。
- グルット君がもっと頻回に動いてくれるといい。車の運転をしなくなると行動が出来なくなる。福祉タクシーの充実も検討してほしい。
- コロナが早く終息する様願うばかりです。
- 住人同士の絆が薄れ、あるいはなくなってきていると思います。家族そのものも絆が失われている事が多いようです。そして、それが特別な事ではなく、お互いに無干渉しているのは普通の様です。心痛む由々しき状態です。家の中でさえそうなのですから、世間一般、それこそ隣は何をする人ぞで、お互い無関心になっていると思います。そこを何とかしなくては、と思います。
- 対象者自身も困っていることがある時連絡してほしい。ふれあう機会が失われている今、声を上げてほしい。受け付ける窓口を作り、誰もが利用できる事を周知してほしい。

- 県内で100万ドルのコスモス畑とか、向日葵の迷路とか、芝桜等で集客している市町村があります。又、足利学校の近くの古印最中は足利学校についてという事もあるのですが、銘菓になっていて多くの人々が知っているのではないかと思います。上尾にはこれというものがないですね。美術館なんてお金のかかる事は申しません。上記の様なアイデア次第で、可能な事で集客できる事業はないものでしょうか。
- 住んでいる地域の自治会活動を充実させる。住んでいる家の隣家（両）との関係がよくなれば、お互いに見守り等、助け合いが出来る。
- ・ごみの集積時間、場所のルールが守られず、カラスにより散らかり汚れている所もある。軒数が多すぎてあふれていたり、高齢の為に前日の日中に出したりしているところもある。
 - ・地区の人々が懇親を深めたり、地域の一員としての自覚を高めたりするための地域の行事（盆踊りや公園での運動会など）が、苦情などを理由に実施できなくなっているのを嘆く声を多数耳にする。
 - ・地域のお助け隊として区長を始め、何人もの人がボランティアで地域の困りごと（木の剪定）を解決しているが、要請は少ない。
- 挨拶のある明るい社会。
- 高齢者がボランティア活動に参加し、高齢者を支えている事は有り難いことですが、今後は若い方にも積極的に支えてもらえる仕組みを作っていくて頂きたい。
- これから寒くなり、外出散歩も少なくなり、孤立が多くなると思います。その対策に力を、考えを、是非協力お願いします。
- 隣近所が孤立しないでお互いに見守りしながら暮らしていければと思う。助けが必要な人がいたら温かく手を差し伸べてほしい。
- たまに広報に載せるとか、回覧を回す等ではなく、一家に一枚（又は一冊）置いておけるような「困った時の問合せ先リスト」のようなものを配ってはどうでしょうか？厚手の行政に関するものはあっても、ページがたくさんあり、自分の思う所にたどり着くのが大変なのでは？と思うので。ピンポイントで例えば今なら「コロナで困ったら」で、身体編、お金編、とか生活の中で「父が離職した時は？」「給料が下がってしまったとき」などの項目で、Q&A みたいに問合せ先をお知らせしてみるのはいかがでしょうか？もちろん全ての事に行政が保障できないでしょうし、する必要もない事もあるとは思いますが、せめて問合せの道しるべだけでも知ることが出来れば、住民としてはとても心強いと思います。
- 防災では被害の規模、頻度から水害対策が一番重要。ハザードマップの周知徹底がなされていないと思う。特に危険地域に住んでいる人々には。
- 各地区の図書館の充実をお願い致します。
- 原市全区において「小さな助け合い運動」を実施。少しずつであるが実績へとつながってきている。しかしまだまだ地域への認知度が低く、今後の工夫が必要であろう。小さな助け合い運動と重ねて地域の見守り体制の確立も急がねばならないと思います。11/7の地域福祉懇談会は貴重な時間である。地域の事は地域で取組む、住んでいる人が一番何が必要なのかわかっていると思う。

- 高齢者に達していない60歳の人の相談（かなりシビア）を市役所にしたら、電話の係の人が違うとたらい回し。アンケートで相談できるように確立してほしい。児相も近所からの通報で子供の相談をしたら全くやる気なし。絶望的対応。誰もが住みやすいまちづくりは、あまりにきれいごとのキャッチ。
- 敬老会について、コロナで中止となり品物だけになりました。友達同士で会う事も出来ず、残念だったと思います。せめて敬老の人の名前でも出してくれたら、嬉しく思うのではないのでしょうか？
- ①高齢者は買物、病院に通う足が困難になってくる。これをなんとか希望に添えたらと思います。
②公民館、集落センターは遠くて歩いていけない。小集団で近い場所で月一回くらい集まってお茶飲みができればいいと思います。
③共助 - ご近所の方が一番お隣の生活の様子がわかるので、仲良く助け合って生活が出来たらと思います。
- 町全体が公園の様な都市。緑 - 水 - 健康。自然との調和を大切にした都市を基調とした都市に、長いスパンで考えていく。
- 住みやすいまちづくりを進める為に、誰でもどこでも挨拶が出来るまち。（特に若い人や、学校の生徒（中学生以上）が挨拶しない）
※学校等や職場でのあいさつがないので必要とっていない→挨拶を交わすようになれば話しをするきっかけになり、お互いの気持ちが分かり合える→困った人がいればお互いに助け合う心がわいてくる→防犯に強いまちづくり＝住みよいまちづくり。
- 単身高齢者、高齢者世帯の調査については、各地区の民生委員の判断で行った方が良くと思います。
- 現在の様な少子高齢社会の人口が減少して行く地域では、75～80歳以上の人達が増加し、長い間築いてきた社会制度が崩壊しようとしている。法の改正で対応できない事を、今日が何とか過ごせればよいということではない。将来展望の危機感、市にも自治会にも感じられない。地域では高齢世帯に関する活動のみで、低所得児童、障害母等が見えにくい。近隣に幼児童がいないので人口構造が何か変。次世代を担う人の地域参加しやすい方法を。どの組織もほとんど同じ人が活動の中心である。不安が全てではないが、希望と期待が少ない。
- 市町へのハガキ制度はありますが、内容が伝わってきません。現代的な目安箱の設置（各地域）はいかがでしょうか？（自由意見）
- 町づくりは全体で考えなくてはいけないし、行事があっても出る人はいつも一緒だし、出ない人は誘ってもいつも出ないし、そのような人を積極的に集まれるような町づくりで、楽しく、喜ばれる町にしたいのですが、難しい。
- 情報共有が持てる手法を考えて進めていく。他を思いやれる人材の育成（各世代で）。
- 地域の方が気軽に交流出来る場や環境をもっと充実してほしい。
- 個人のプライバシーの兼ね合いが難しい（個人情報）。その方をもっと知っていれば違う援助が出来たかもしれない。知らなければ通り過ぎてしまうのは仕方がない。もっと高齢者を外に出し交流があっても良いのでは。身体的にも精神的にも外に出るキッカケ、手段がない。高齢者のサービスには公平不公平があると思う。いつもサロンなどに出られる方は決まっている。田舎のお隣さん同士は連れ立ってサロンや体操教室、お茶会などに出席しているうらやましい村もある。

- 民生委員になって感じ知ったことですが…
 - ① 包括センターの方が本当によく動いてくれています。
 - ② 社協の人たちがどれほど仕事はいえ、気遣って寄り添っているにも関わらず、周りが余りにも社協の存在を分かっていない。勿体ない。もう少し社協を簡単に易しく説明し、どのくらい皆さんを助けているか教えるべきではありませんか。
- ご近所同士の結束が何より大切だと思います。新しい住宅やアパート等に住まわれている方には、どのようにつながっているのか見えないような気がします。
- 個人情報保護が先行し過ぎて、本来の高齢者見守り活動すべきことが情報不足となっている。
- 安全の確保が重要と思っています。関係機関が情報や考え方を共有し、適切な連携の下で対応出来る地域ネットワークの一元的に把握、対応出来る機関が必要だと思います。プライバシー保護を考慮して情報共有化、在り方の明確化が条件。
- 地域の町内会と連携し、具体的な地域を支える仕組みづくりの取り組みが必要かと思っています。地域住民の声を集め、各個人の意見、悩みをまず知る。出来ることから出来る範囲で取り組んでいく仕組みを作る。
- 文化センターやコミュニティセンターの改装工事に多額な費用をかけていますが、それほど改装が本当に必要なのか理解できません。また、国際基準を満たすプールを作る計画があると聞いていますが、必要ないと思います。資金を回していただきたいのは子供や高齢者、生活困窮者の為です。目立たない分野にお金を使ってほしいです。公共交通の環境も整えてほしいです。車を手放した後、通院や買い物など日常生活に不可欠なことをどのようにするかを考えると、現状ではかなり不便だと思い、なかなか車を手放せない高齢者が多いと聞いています。
- 高齢者になっても心配なく外出や買い物ができる町になれば良いと思う。
- コロナの影響で、高齢者になるべく人との接触を避けようとしているため、見回り活動をしていても、家にいるのかいないのか分かりづらく、活動も少し控えめになってしまう。何か良い見守り方法がないものかと心配。
- 挨拶は大切だと思います。噂話はしない！！自助、共助、公助の心構え。
- 民生委員は困っている方々を行政、他に繋ぐ役割として今まで活動してきました。しかし、私も限度があり、次の方々へ民生委員をしていただきたく声かけをしてきました。しかし成り手不足で困っています。何か方法はありますか。
- 上尾市全体の底上げをしていくのは大切なことですが、私たち一人一人の感じるところは身の回りの住みづらさ、不便さです。地域によって住みやすくなるために取り組まなければいけないところはそれぞれ違ってきます。もう少しきめ細かな所での（地域別等の）住みやすい町づくり案もあっても良いのでは？
- このアンケートを集計し結果をまとめ、その後の効果的な発展につなげてほしい。
- 自分が町内のいきいきクラブに入っていて、グランドゴルフ、女性部、カラオケクラブに参加し、1週間に何度も顔を合わせています。今年はコロナの為に大会やイベントが中止となり残念ですが…毎週の団欒の家に担当している方々を誘うようにして楽しんでもらっています。民生委員の方にも積極的に入ってもらえたら！と願っています。
- 地域で住民参加の行事を計画しても、新しいメンバーの参加がなく、いつも同じ人たちだけになってしまう。1回参加してみれば、楽しさや有意義なことも理解してもらえると思うが、なかなか難しい。本人が必要感を持たないと、参加者は増えないと思う。

- 現在、自分たちの生活で精一杯な中、長についている方も大変だと思うが、もっと町内会、行政、子供会、学校など助け合って共有していけたらいいと思う。
- 早く交流が持てる体制が出来るといいですね。町内サロンや、子供会、祭りなど、世代を超えた交流、コロナ禍の中、今は出来ないですが…。地域の交流する場所などに、公的機関が金銭面での支援も必要だと思います。
- 私は長年民生をやらせていただきましたが、あまりキャリアがなくても出来るようにしないとやり手がないように思います。近くの市町村とも参考にして、やり方を変えていってほしいです。次の人が決まりません。(私はあと2年で次の方をある程度お願いしてあります)
- ①各方面からの意見や要望を基に、第3次計画、第6次活動計画を組み立てるとは思いますが、大項目に対して、中項目、小項目を出来るだけ、具体的な数値目標に落とし込み、PDCAを3ヶ月、少なくとも6ヶ月で見直し、本来の意味でサイクルが回るように努めて頂きたい。
②住民一人一人が本当に自分たちのために考えていると感じるのは、トップ(=市長)の持っている情報(考え、思い)が、同じレベルで出来るだけ早く伝わってくることです。そのためには、市のスタッフの皆様の意識も変える必要があると思いますが、本当の意味で一丸となった時のパワーは、計り知れない効果につながると思います。宜しくお願いします。
- 地域ボランティアを増すことで、地域の活性化を図り、近所付き合いを良くする。
- 市内で人気のある所は丸山公園を挙げる人が多いですが、残念なことに交通が少なく、ファミリーで車で行けない人は、なかなか行くことが出来ません。紅葉、花の季節に期間限定でバスを出していただくと、生活の楽しみが増します。世代別に何を望んでいるのか、どうしてほしいのか、アンケート等で分かると、具体化していくことが見えてくるのではないかと思います。その中でお互いに歩み寄り、接点を見いだしていければ答えが出るのかなと感じます。まあまあと思う位がいいのかと。でないと、どこかの世代にしわ寄せがいきそう。
- 1人1人がほんの少しの思いやりと優しさを持って生活することで、街全体が穏やかで住みやすくなると思う。まずは自分自身からそれを実行していきたい。
- 1) 町内会に加入していないアパートなどでの一人暮らしの高齢者対策が必要です。(①大家さんと交渉して、町内会に全員加入させること。②アパート居住者の事情つかむこと)
2) 災害時ケアプラン作成の取り組みが必要です。弱者支援のためにも、地域のプラン作りが急務を思います。行政任せだけでなく、「町内会もいきいきクラブ」も会合を持って、共に安心して暮らせる地域づくりに努力すべきです。
- ①それぞれの家庭の経済状況もある程度安定していることが大切ですが、お互いの気持ちを尊重し、思いやりのある言葉かけが大切だと思います。
②最低限の衣食住が助け合える世の中になればいいですね。
- ①コンパクトシティー構想への転換。
②高齢者に生きがいの為、仕事をやらせる。
③高齢者が社会参加した場合、ポイントを付与して買い物に活用システムを作る。
④住民の転入、転出の情報を民生委員にくるシステム希望。

- 人によって健康状態は違いますが、高齢者（元気な）が一人で暮らすことが出来ても、初めての挫折（病気は別として）するのが、足が痛くなり歩けなくなってくると買い物が出来なくなり、徐々に行動範囲が狭くなり外に出なくなります。せめて、日常の買い物やちょっとスーパーなどに気軽に出歩くための交通整備も急務だと思います。長年、民生委員活動をしてきて、一人で買い物が出来なくなった…という声を聞いてきました。この様に体操をして見て…とか筋力を使っとか言ってみますが、1人で生活出来ている自信はとてつもなく大きいと思います。
- 市役所など「すぐやる課」のような体制が必要と思われます。
- ①上尾市での新型コロナ感染の冬本番増加が予測され、かつ従来のインフルエンザも加わり大変な季節となりうると予測され、なお十分に防止対策していきたい。
②埼玉県や上尾市の感染者が2次3次と増える傾向が顕著になり、高齢者の閉じこもりや、互いのコミュニケーション不足となり、認知症及び体力の低下により健康が不安視されるので、何とか活性化を図ってほしい。特に高齢者独居の方々の心身のケアを。また、県外からの就労者が多く、この状況では帰省もままならず、心配事を抱えることが多いと思われる。何かの心身の支えが必要であるかも。
- 今は1日も早くコロナが終息し、元の生活に戻れるようになることを祈っています。高齢者の憩いの場を復活させてあげたいと思っています。コロナにうつるな、うつすな、をモットーに頑張るしかありませんね。
- 年齢がいったからの民生委員。私より若い人のお手伝いでも引き受けたからには頑張ります。これからもご指導のほど宜しくお願い致します。
- 毎年のように大きな災害がある中、協力、助け合う体制作り。これは年齢には関係なく誰もが自分の問題として考えられるので進めてほしい。
- 自宅から担当が離れているので知らない人ばかりで、今年はコロナの関係で増々訪問がなく、大変困りました。やはり自分の住んでいる所をやりたかったです。
- 高齢化の中で、地域毎に「支え合いの会」の組織化が進んでいると思うが、その情報交換する機会、取り組み状況の情報交換、機会が欲しい。
- 地区において支え合いの活動を通してでも、家族の悩み等を気楽な気持ちで相談が出来る環境が整うと良いと思います。
- 公共交通網の充実。（車に乗れない人が病院に行くのも大変）